サマスタ

SUMMER STUDIO

–

2015

SUMMER STUDIO 2015

REPORT

発行：公益社団法人日本造園学会関東支部 / 第 11 回 学生デザインワークショップ　サマースタジオ 2015

告知フライヤー

サマスタ 2015 SUMMER STUDIO

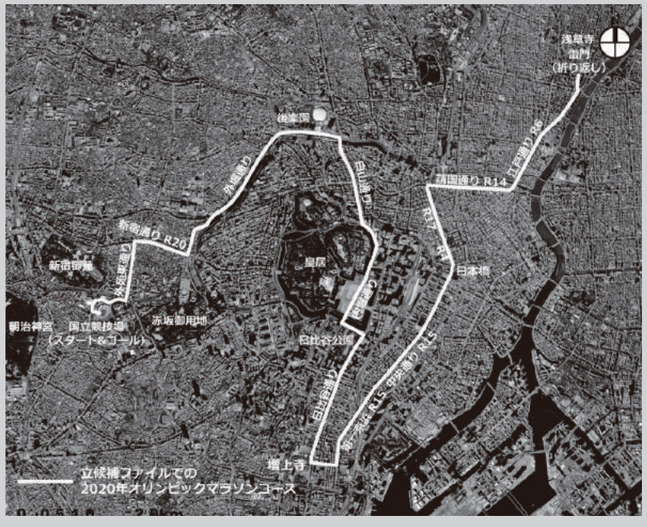
開催概要

2005 年から始まった学生デザインワークショップの活動は、昨年で 10 年が経過した。節目となる 2015 年の第 11 回目から 5 年間は、来る 2020 年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「世界都市東京」の将来像を提案していく。世界的に都市への人口集中が起こっており、都市の課題を解決することは社会的インパクト大である。現在だけでなく 2020 年以降未来まで目を向ければ、高齢化・人口減少など、かつて人口爆発が起こった時代の都市開発とは異なる課題が山積みしている。パラダイムシフトが起きた社会に対し、これからの都市のあるべき姿を発信し、具体的な変化を起こすことを目指す。

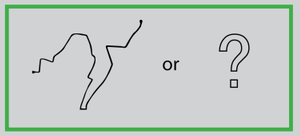
2015 年は、2020 年東京オリンピックのマラソンコースを手掛かりに東京の将来を考える。42.195㎞の長さを持つマラソンコースは、都市の中を巡る。TV カメラで捉えられるマラソン選手たちの背景には街並みが映りこみ、その都市景観は世界に向かって発信される。

東京を世界に向けて発信するために、どこがマラソンコースとしてふさわしいか、また、そのコースと周辺はどんな空間であるべきか提案する。2020 年のオリンピック・パラリンピックでは東京が世界に向けて何をプレゼンテーションしていくべきか、また、レガシープランも忘れてはならない。都市景観は都市における人々の想いや活動の集積が顕在化したものだとすると、マラソンコースを都市の本質を切り出すナイフのようなものと捉え、そのコースを設定してみたい。

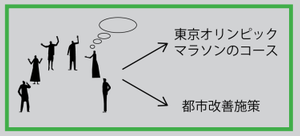
提案のイメージ・コース設定条件



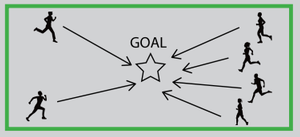
1 改善案 or 新提案



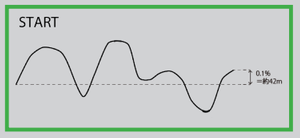
2 実際に反映されることを目標に



3 スタートは自由・ゴールは新国立競技場



4 スタートとゴールの標高差は 0.1% 以内



オリンピック・マラソンの基礎知識

オリンピックとマラソン

マラソンの起源は、『マラトンの戦い』で勝利したことを伝えるためにフェイディピデスという兵士がアテナイまでを走り、アテネに着くと「喜べ、勝った」と叫び息絶えたという故事にもとづいているそうです。

● オリンピックの誕生

起源は古代ギリシアで行われていた「オリンピア祭典競技」で、始まったのは、紀元前 9 世紀頃とされています。古代オリンピックはギリシアを中心にしたヘレニズム文化圏の宗教行事でした。全能の神ゼウスをはじめ多くの神々を崇めるための、神域における体育や芸術の競技祭だったのです。

● 近代のオリンピック

1896 年にギリシャのアテネで第 1 回オリンピック競技大会が開催。オリンピック・パラリンピックは、国際オリンピック委員会（IOC）によって 4 年に一度開催される世界的なスポーツの祭典であり、スポーツを通した人間育成と世界平和を究極の目的とし、夏季大会と冬季大会を行っています。

● オリンピズムとは

「スポーツを通じて心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連体感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで平和でよりよい世界の実現に貢献する。」様々な社会情勢に左右されながらもオリンピックが継続しているのは、この「オリンピズム」という理想が、世代や国境を越えて共感を呼んでいるからに他ならないでしょう。

オリンピックと東京

TOKYO●2020
APPLICANT CITY

● 2020 東京オリンピックのビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。1964 年の東京大会は日本を大きく変えた。2020 年東京大会の基本コンセプトは、

1. 「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」
2. 「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」
3. 「そして、未来につなげよう（未来への継承）」

史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

● 1964 東京オリンピック開催

1964 年 10 月、第 18 回オリンピック競技大会が東京で開催。93 の国と地域から 5,500 名を超える役員・代表選手が、アジアで初めてのオリンピックに参加。日本からは 437 名（役員 82 名／選手 355 名）の代表選手団が全実施競技にあたる 20 の競技に出場しました。

● 東京のインフラの整備

1959 年、東京がオリンピックの開催地として選ばれました。オリンピック開催に向けて、日本は一丸となって 5 年という短期間で、インフラその他の体制整備に着手しました。それらは、競技に直接関わる国立競技場等の整備だけでなく、交通機関の新設や道路の拡幅といった、東京の都市基盤の大規模整備にも等しいものでした。そのなかでも、高速道路は、用地取得が大変困難であったために一般路線上に建設するだけでなく、江戸城の濠や河川の上、埋立地に建設されました。1964 東京オリンピックを契機に、今日の東京の風景はつくられたとも言えます。

TOKYO 1964

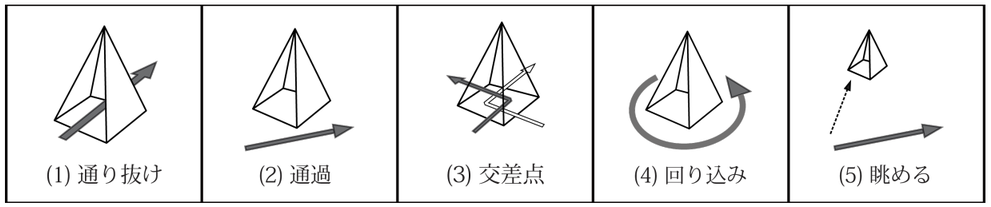
参考：JOC, IOC 公式ウェブサイト

都市とマラソン

42.195km の長さを持つマラソンコースは、都市の中を巡ります。TV カメラで捉えられるマラソン選手たちの背景には街並みが映り込み、その都市景観は世界に向かって発信されます。開催地固有の風景が最も現れる「マラソン」競技「名所だけでなく、通過していく交差点の信号機や交通標識や広告看板、歩道の色や街路樹の種類や背景に流れる名もない街並みなど、その街の日常的な風景の要素も興味深い。」

– 石川初「運動競技場のランドスケープ」『建築雑誌 vol.129 no.1665』2014.12

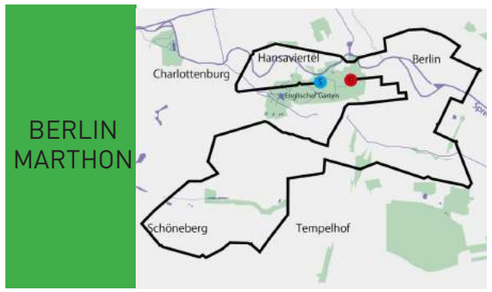
● 通過するスポットの５タイプ



引用：赤井文「マラソンコースから見た都市」2015.07.18　―都市のプロモーションに着目して―

● マラソンルートの３タイプ

1. 名所案内型 効果的に都市をアピールできるルート



2. 都市骨格型 都市の形が浮かび上がるルート

3. ストーリー型 街の発展の歴史を追ったルート

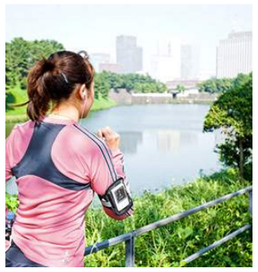
東京とマラソン

● 東京でマラソンの国際大会

2007 年 2 月 18 日、国内で初めての大規模シティマラソンである「東京マラソン」が開催されました。雪の舞うなか、都心を 7 時間も封鎖する初の大規模レースとなりましたが、たくさんの観衆が沿道を埋め、大きな盛り上がりを見せました。視聴率は 20% を超え、その後、日本でのマラソンブームの契機となり、全国各地の市民参加型マラソン大会（長野マラソン・福岡国際マラソン・大阪国際女子マラソン・名古屋国際女子マラソン・びわ湖毎日マラソン（大津）・夢舞いマラソン（東京）など）が新設されるなどの波及効果を生みました。

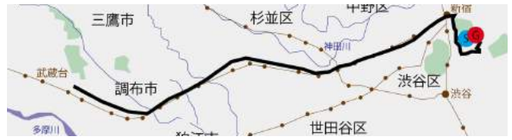
参考：METRO MIN. no.159 2016.1.20　引用：東京マラソン公式ウェブサイト

● 皇居ラン



日本で最もメジャーなランスポットとも言える、皇居周回コースでは、夜な夜な“ランナー渋滞”が起きているそうです。千代田区によると、平日 18 ～ 21 時の 3 時間で、実に約 4000 人ものランナーが皇居の周回コースを走っていると言います。

● 1964 東京オリンピックのマラソンルート



前回の 1964 年東京オリンピックでは、国立競技場をスタートし、明治通りを新宿方面へ向かい甲州街道を通っていきます。調布の味の素スタジアムを折り返し、同じ甲州街道を戻り、国立競技場がゴールとなるルートでした。

サマースタジオ 2015 スケジュール

- 7/10

応 募

500 字程度のレポート提出
a. テーマに沿ったマラソンコースのアイデアと問題意識
b. 学生デザインワークショップへの参加動機
→レポートによってチームの振り分け

7/18

初回ミーティング

初回顔合わせ MT
会場 : 東京農業大学
チーム分け発表 / 概要説明 / 話題提供：竹内智子氏「東京の緑の成り立ち」、町田誠氏「TOKYO GREEN 2020 の活動について」、赤井文氏「マラソンとプロモーション」/ グループワーク / 懇親会

8/8

味の素ナショナル トレーニングセンター見学

会場 : ナショナルトレーニングセンター
見学 / 話題提供：楠田昭徳氏「マラソン選手から見たマラソンコース」、田中伸彦氏「東京オリンピック・パラリンピックと観光」/ 食堂で昼食

8/9 - 8/14

コアワーキング

会場：東京農業大学
宿題に関しチーム内でミーティング / 日割りのスケジュール立て / マラソンコース場所・コンセプト検討 / シニアチューター＋チューターによるクリティック

8/15

最終日 中間成果発表 1

会場：東京農業大学
シニアチューター＋チューターによるクリティック / 各チーム成果プレゼン
→方向性の確定

8/22

中間成果発表 2

会場：東京農業大学
ゲストコメンテーター＋チューターによるクリティック / ゲストコメンテーターによる話題提供：福岡孝則氏、鈴木俊治氏、後藤光将氏 ／ケータリングで飲食しながらゲストコメンテーター総評
→コンセプトの確定

9/12

成果発表

会場：東京農業大学
チューターによるクリティーク / プレ発表 / 各チーム収束した案の発表 / 学生参加者にアンケート

11/22

最終成果発表

関東支部大会発表
会場：日比谷図書館文化館
パネル展示 / 成果物発表

STUDENTS

- 東京大学 農学生命科森林科学専攻 社会基盤学専攻
- 千葉大学 園芸学研究科 園芸学部緑地環境学科
- 横浜国立大学 都市イノベーション学府
- 東京理科大学 理工学研究科建築学
- 明治大学 農学部農学科環境デザイン 商学部
- 日本大学 理工学研究科建築学 理工学部建築学科 生物資源科学部
- 東京農業大学 地域環境科学部造園科学科
- 慶応義塾大学 政策・メディア研究科
- 工学院大学 工学研究科建築学
- 立教大学 スポーツウエルネス学科
- 中央大学 都市環境学科
- 宇都宮大学 農業環境工学科

TUTORS

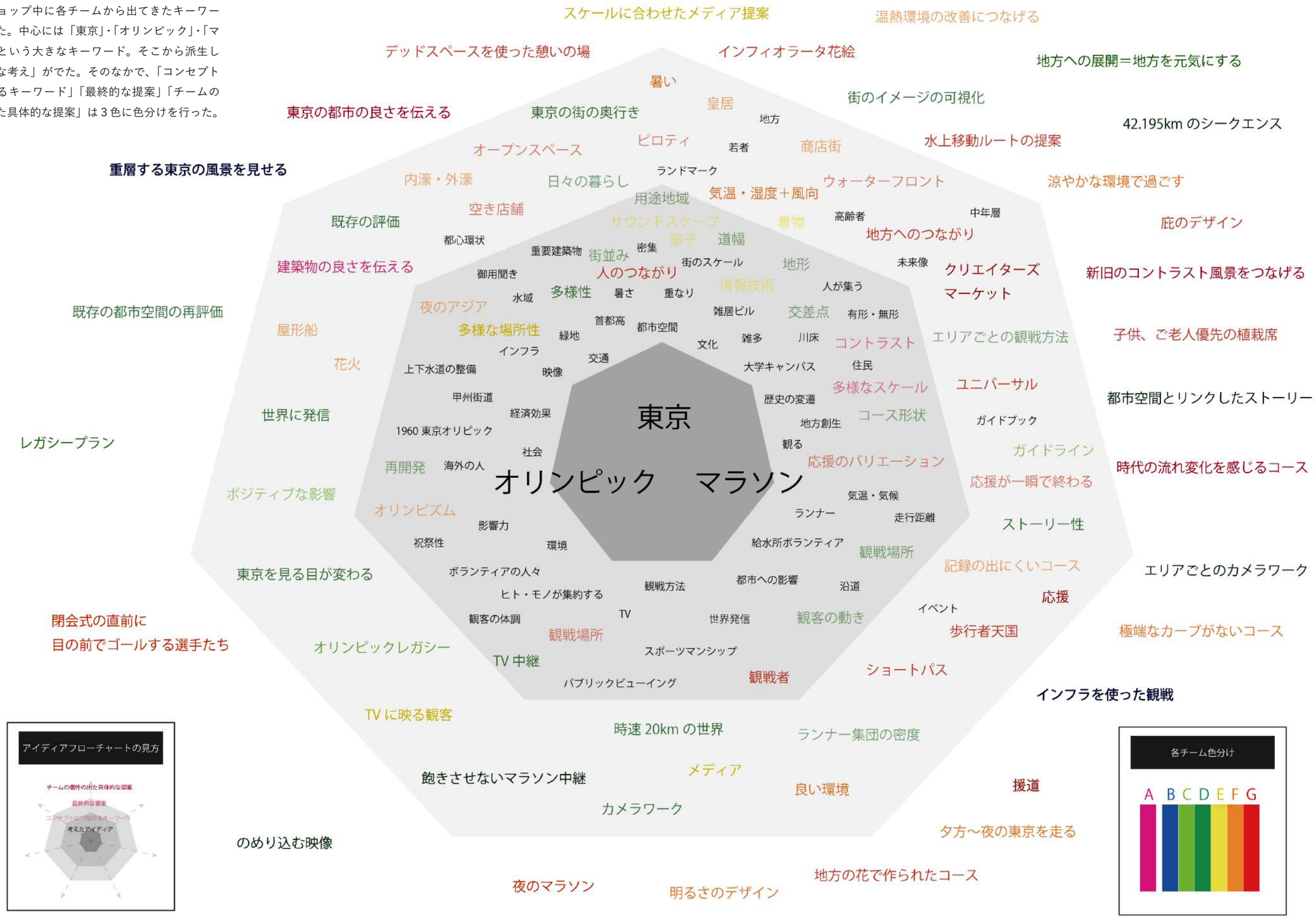
粟谷潤子 junko awatani / 伊藤司貴 (株) 長谷工コーポレーション / 井野貴文 (株) グラック / 大木一 (株) アプル総合計画事務所 小澤亮太 (株) フィールドフォーデザインオフィス / 岸孝 (株) プレイスメディア / 杉山茂樹 (株) ランドスケープデザイン / 高沖哉 (株) ヒュマス / 竹林知樹 大成建設 (株) / 新田知生 向日葵設計 / 向山雅之 (株) 竹中工務店 / 渡辺美緒 渡辺美緒デザイン事務所

GUESTS

福岡孝則様 神戸大学大学院 / 鈴木俊治様 ハーツ環境デザイン代表 明治大学 / 後藤光将様 明治大学 日本オリンピック・アカデミー理事 / 竹内智子様 東京都建設局 / 町田誠様 国土交通省 / 赤井文様 東日本旅客鉄道株式会社 / 楠田昭徳様 元連続フルマラソンマラソン完走世界記録者 / 田中伸彦様 東海大学 / 沼澤秀雄様 立教大学 / 嵯峨寿様 筑波大学 / 荒牧亜衣様 筑波大学 / 和田恵子様 JOA / 片岡照博様 COTONA/ 板垣範彦様 いきものランドスケープ / 久間亜紀様 東京都公園協会 / 石川初様 慶応義塾大学 / 霜田亮祐様 千葉大学 / 鈴木裕治様 オンサイト計画設計事務所 / 高橋靖一郎様 LPD / 三島由樹様 FOLK / 山田順之様 鹿島建設 / 湯澤晶子様 日本設計 / 古谷勝則様 千葉大学 / 菊池正芳様 東京都西武公園緑地事務所長 / 葉山嘉一様 日本大学 / 阿部伸太様 東京農業大学 / 加藤真司様 建築研究所 / 田中聡様 東京農業大学

アイディアフローチャート

ワークショップ中に各チームから出てきたキーワードを並べた。中心には「東京」・「オリンピック」・「マラソン」という大きなキーワード。そこから派生して「様々な考え」がでた。そのなかで、「コンセプトにつながるキーワード」「最終的な提案」「チームの個性の出た具体的な提案」は３色に色分けを行った。



A　新旧の景観を回る

東京のコントラスト風景を見せるマラソンコースを提案。新しい物と古い物のコントラストを分析し、それらを繋げたルートをデザイン。映像を通じて、東京の歴史的建造物や街並みを見せ、時代の流れと変化した都市景観を全世界へ発信していく。

start 東京駅 / 5km 神田 / 10km スカイツリー / 15km 両国 / 20km 月島 / 25km 赤坂 / 30km 新宿 / 35km 明治神宮内苑 / 40km 明治神宮外苑

→ p. 11-12

B　重層都市東京を走る

交通インフラの重層する東京の風景を見せるマラソンコースを提案。たくさんのインフラの重なりをプロットし、そこを通るルートをデザイン。ランナー・観客・映像を通じて、東京の歴史の重なりと空間の重なりを全世界へ発信していく。

start 芝公園 / 5km 汐留 / 10km 竹橋 / 15km 日比谷公園 / 20km 霞ヶ関 / 25km 神田 / 30km 市ヶ谷 / 35km 六本木 / 40km 千駄ヶ谷

→ p. 13-14

C　レガシーを考える

まちのはじまりから未来へとつなぐエリアを結んだマラソンコースに設定した。わたしたちの考えたレガシープランを元に、ガイドラインを作成し、地方へも展開できるようなマラソンコースを提案した。

start 皇居 / 5km 丸の内 / 10km 秋葉原 / 15km 浅草 / 20km 清澄白川 / 25km 日本橋 / 30km 増上寺 / 35km 表参道 / 40km 赤坂迎賓館

→ p. 15-16

D　Dive to Tokyo

既存の東京を駆使してマラソン映像をもっと面白く！時速２０kmという、マラソンならではのスピード感覚で映像を構成する要素を分析。それらを組み合わせることで、42.195kmの多様なシークエンスを見せるマラソンコースを提案。

start 東京駅 / 5km 武道館 / 10km 秋葉原 / 15km 清澄白河 / 20km 新橋 / 25km 六本木 / 30km 表参道 / 35km 明治神宮 / 40km 四ツ谷

→ p. 17-18

E　FANTASTIC TOKYO

TV中継を通じて東京の楽しさを伝えるマラソンコースの提案。また、東京の多様なスケールを表現するために、4つのカメラによるメディア提案を行った。観戦者に向け、観戦を楽しめる観客席のデザインと、プロダクトデザイン（浴衣、扇子、音）の提案も行った。

start 上野公園 / 5km 蔵前 / 10km 月島 / 15km 有明 / 20km 有明 / 25km 新橋 / 30km 神保町 / 35km 赤坂 / 40km 渋谷

→ p. 19-20

F　ランナーのベストを考える

マラソン競技・オリンピックの持つ意義からマラソンコースを考える。ランナーや観客の体調面から涼やかな”緑地”“水系”のそばを、心理面を考え人の集まりやすい”駅前広場”や住宅街に”親子観覧席”をデザイン。また、夕方～夜に走るマラソンを提案する。

start 国立競技場 / 5km 市ヶ谷 / 10km 日比谷公園 / 15km 築地市場跡 / 20km 蔵前 / 25km 西日暮里 / 30km 巣鴨 / 35km 早稲田 / 40km 四ツ谷

→ p. 21-22

G　援道

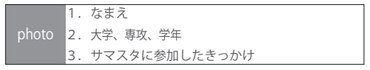
G班は既存のマラソンコースを変更せず、マラソンの応援に着目した。マラソン応援時の課題を解決したうえで応援の拠点とそこから派生する応援空間、応援によって人とつながる道を提案する。そしてオリンピック後もつながりが継続できる仕組みを造る。

start 国立競技場 / 5km 飯田橋 / 10km 日比谷公園 / 15km 日本橋 / 20km 雷門 / 25km 日本橋 / 30km 日比谷 / 35km 水道橋 / 40km 明治神宮外苑

→ p. 23-24

0　0.5km　1.5km　3km　5km

A TEAM



1．なまえ
2．大学、専攻、学年
3．サマスタに参加したきっかけ

1．田中　和幸　（Kazuyuki Tanaka）
2．日本大学大学院　理工学研究科建築学専攻　M1
3．大学の教授からのお誘いで

1．小山　浩太郎　（Kotarou Koyama）
2．東京農業大学　地域環境科学部造園科学科　B3
3．研究室からの紹介で

1．山田　竜之介　（Ryunosuke Yamada）
2．宇都宮大学　農学部農業環境工学科　B3
3．竹林さんから紹介、他分野の学生と交流するため

1．佐藤　泰弘　（Yasuhiro Sato）
2．東京農業大学　地域環境科学部造園科学科　B3
3．研究室からの紹介で

1．比嘉　さくら　（Sakura Higa）
2．明治大学　農学部農学科環境デザイン研究室　B3
3．研究室からの紹介で

1．高沖　哉　（Hazime Takaoki）
2．（株）ヒュマス
3．学生の取り組む姿に活動の素晴らしさを感じているから

1．竹林　知樹　（Tomoki Takebayashi）
2．大成建設（株）
3．学生と様々な視点を探求する良い機会と捉えたため

「東京のコントラスト風景」を見せるマラソンコース

東京は、江戸から現在までに大きな災害などが起こり変遷が繰り返されてきた。その都度、街が更新されていき様々な時代のものが混在する。マラソン中継で東京の魅力を伝える。東京は新しいものと古いものが混在している。時間の流れ、コントラストが感じられる成熟した都市.コントラストの感じられる空間を繋ぎ、マラソンコースを設定する。

東京の変遷

東京は、江戸から現在までに大きな災害などが起こり変遷が繰り返されてきた。その都度、街が更新されていき様々な時代のものが混在する。だが、一般の人に良さが伝わっておらず、価値あるものが失なわれている。現代のデザインにも影響され、都市の景観や建築などの歴史的価値があるものが東京の様々なところに存在する。

Skyscraper

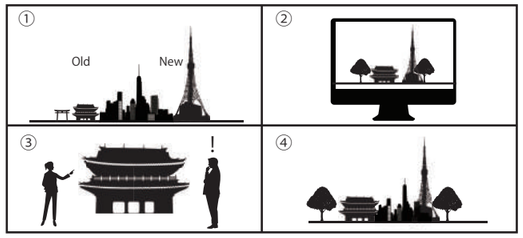
Transport Infrastructure

Housing

Garden・Park

東京を世界へ伝えるには

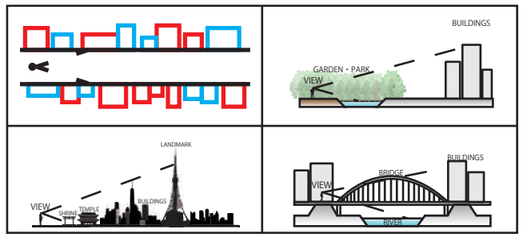
①日本をプロモーションをする手法の一つとしてマラソンを利用する。42.195 kmの限られた距離と時間で歴史の変化を伝えるために時間の違うもののコントラストを使い同時に見せ印象を強くする。
②コース上にある歴史的価値あるものと現代とのコントラストをより強調させるデザインをし、マラソンの背景などに映し出す。
③マラソンを観たり街の解説を聞き、興味を持った外国人が実際に訪れ、その景観を評価することにより住人や利用者の街への意識も上げる。
④人々は景観に対する意識が変わり価値のある文化の保存と継承させる動きが活発となる。街を魅力ある景観に保たせる。



コントラスト風景を選定する

コントラストを集め、コントラストのパターンからコースを設定する。街との関係性や機能的要素を踏まえデザイン提案していき、歴史的価値あるものを保存・継承させていく。

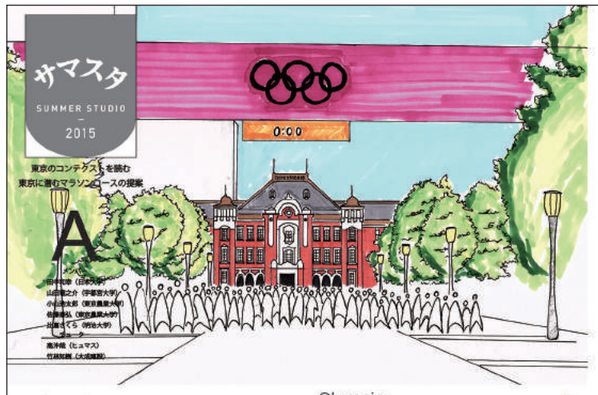
コントラストサンプル一覧からグループ分けをする。
グループの特徴を分析をしてグループを図で表しパターンを決定する。パターンからコントラストとなる場所をとって繋げてコースを選定する。



コントラスト風景の保存と継承させる

隅田川沿い
浅草寺・雷門から蔵前方面へ観光範囲を広げる建築内に道路の延長線上の道を造り川とスカイツリーなどの景観を望むようにする。2階部分をずらすことでマラソンの応援を建築内部からできるようにする。もともと住んでいた人たちの住戸も確保。

旧東京市営店舗向け住宅　清澄白河
清澄白河はカフェや寺院が多い街。構造が十分に機能しているので、内部のリノベーションと外部の塗装を綺麗に戻すだけで道路の反対側との対比ができる。一階部分にはお店を出展させマラソン当日に応援している人たちに休憩の場所やショッピングをさせるようにする。



Concept

東京には歴史的な価値のあるものがある。それらをコントラストの風景があるマラソンコースで伝える。
マラソンによって築かった客観的な評価から価値のあるものを街に保存と継承させて魅力ある街をつくる。

There are some of the historical value in Tokyo. Them to the change of landscape by marathon relay. I tell by the contrast with the modern. something worth is to inherit and saving from objective evaluation gathered by marathon. To have a charm to the city landscape.

Olympic

オリンピックは205もの国と地域が参加し、その開催経験が中継される。マラソンは都市の景観が映し出されるため欠かせない競技である。
2度目のオリンピックではインターネットの配信やSNSの発達により金世界でオリンピックの情報の共有がさやすくなった。

Olympics participated in 205 things the countries and regions that held the competition is relayed. Marathon is one of the few competition landscape of the city is projected.
The second time the Olympic Games has become more likely to be the sharing of Olympic information in all the world by the development of the Internet and SNS.

Characteristic of Tokyo

東京は、江戸から現在までに大きな災害など Tokyo, and major disaster occurs transition どが起こり変遷が繰り返されてきた。その都度、街が更新されていき様々な時代のものが混在する。 to date has been repeated from Edo. In each case, mixed in a variety of age continue town has been updated.

Contrast landscape in Tokyo

歴史の変遷が現代のデザインにも影響され、都市の景観や建築などの歴史的価値があるものが東京の様々なところに造られてきた。
だが、一般の人に良さが伝わっておらず、価値あるものが失なわれている。
東京にある古いものや新しいものの要素をコントラストにより時代の流れを感じるマラソンコースにして魅力を伝える。

Transition of history also affects the contemporary design, that there is a historical value, such as urban landscape and architecture have been built in various places of Tokyo.
But, the general public does not transmitted is good to, what is worth has been lost.
Tokyo is a mature city that finished by stacking a variety of history. To convey the appeal in the marathon course to feel the flow of the times by contrast a new one element old in Tokyo.

Program

①日本をプロモーションをする手法の一つとしてマラソンを利用する。42.195 kmの限られた距離と時間で歴史の変化を伝えるために時間の違うもののコントラストを使い同時に見せ印象を強くする。

①It will use the marathon as one approach to promotion in Japan.Among the distance 42.195 km and time of limited tell the change of history.It is strongly the impression that show the contrast of different time at the same time.

②コース上にある歴史的価値あるものと現代とのコントラストをより強調させるデザインをし、マラソンの背景などに映し出す。

②The historic valuable thing and modern contrast that is on the course is emphasized by design, and to broadcast the background of the marathon.

③マラソンを観たり街の解説を聞き、興味を持った外国人が実際に訪れ、その景観を評価することにより住人や利用者の街への意識も上げる。

③Foreigners who watch the marathon and listen to the commentators will take interest in the host city and will actually come visit. They will then comment about the landscape which will raise awareness of even the city's residents.

④人々は景観に対する意識が変わり価値のある文化の保存と継承させる動きが活発となる。街を魅力ある景観に保たせる。

④People awareness of landscape changes. Then, the motion to the preservation and succession of valuable culture becomes active. It kept to the attractive landscape of the city.

Design

コントラストを集め、コントラストのパターンからコースを設定する。

Summarized patterns by collecting the contrast. Sets a course from the pattern.

街との関係性や機能的要素を踏まえデザイン提案していき、歴史的価値あるものを保存・継承していく。

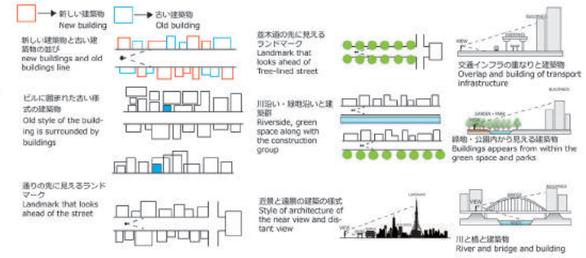
We will continue to design proposal in light of the relationship and function of the town in order to continue to preserve and inherit what is historical value.

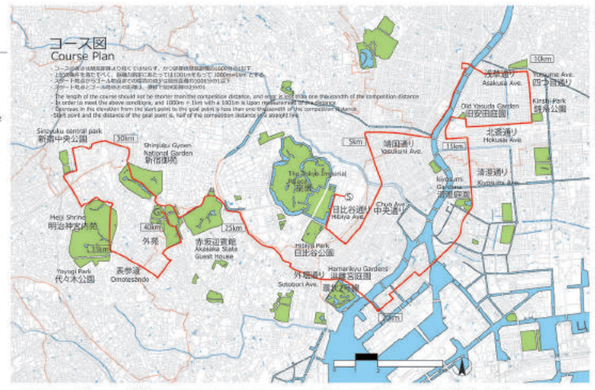
コントラストサンプル一覧からグループ分けをする。
It will be the grouping from the contrast sample list.

グループの特徴を分析
To analyze the characteristics of the group

グループを図で表しパターンを決定する
It represents a group in the figure, to determine the pattern

パターンからコントラストとなる場所をとり、繋げてコースを選定する
Selecting a course by connecting takes a location to which the contrast from the pattern



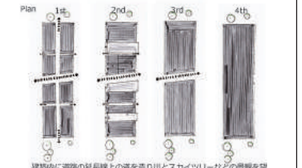


コース断面図
Course Section

隅田川沿い
Along the Sumida river

隅田川を望むための都市計画
浅草寺・雷門から蔵前方面へ観光範囲を広げる
Urban planning for overlooking the Sumida River.
Spread the tourism range from Sensoji Temple, Kaminarimon to Kuramae district

perspective drawing



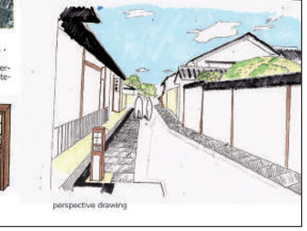
建築内に道路の延長線上の道を造り川とスカイツリーなどの景観を望むようにする
To make a road on the extension of the road in the building, you want to look like the landscape, such as River and Sky tree.

マラソンの応援を建築内部からできるようにテラスを設けることと建築から川を近くで感じられるように2階は一部分をずらしている。
Second floor so as to be felt near the river from architecture and providing a terrace to be able to cheer the marathon from the inside architecture is shifted a portion.

旧東京市営店舗向け住宅　清澄白河
Municipal TokyoShop with housing Kiyosumishirakawa

清澄白河はカフェや寺院が多い街。建築はリノベーションを行い、街は道路・歩道の整備と舗打をつけ人々を街に展開させる。
Kiyosumishirakawa there are many cafes and temples. Architecture performs renovation, to be deployed in the city the people with the maintenance and street lighting of roads and sidewalks

perspective drawing



perspective drawing

B TEAM

1．鈴木　宋一郎　（Soichiro Suzuki）
2．東京理科大学　建築学専攻都市デザイン・都市計画研究室　M1
3．フライヤーに恋をして

1．長谷川　愛美　（Manami Hasegawa）
2．千葉大学 緑地環境学科 地域計画学研究室 B4
3．マラソンに目覚めて

1．日野　夏希　（Natsuki Hino）
2．東京農業大学　ランドスケープエコロジー研究室 B3
3．サマスタで新たな東京と自分を見つけたくて

1．中島　俊樹　（Toshiki Nakashima）
2．明治大学　環境デザイン研究室 B2
3．サマスタで 頭も身体もムキムキになると聞いて

1．岸　孝　（Takashi Kishi）
2．（株）プレイスメディア
3．学生の育成。自分のモチベーションの維持。

photo
1．なまえ
2．大学、専攻、学年
3．サマスタに参加したきっかけ

1．小林　千鶴　（Chizuru Kobayashi）
2．工学院大学　建築学専攻ランドスケープ研究室 M1
3．ランドスケープ分野にどっぷり浸かるため

1．葛西　妙月　（Mitsuki Kasai）
2．東京農業大学　造園科学科 B3
3．オリンピックにランドスケープで挑戦したかった

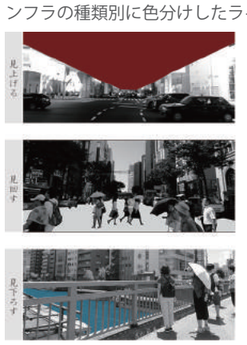
1．大関　萌　（Moe Ozeki）
2．明治大学　農学部環境デザイン研究室 B3
3．ランドスケープの力と魅力を再発見したくて

1．杉山　茂樹　（Shigeki Sugiyama）
2．（株）ランドスケープデザイン
3．原点に帰るため

「交通インフラの重層する東京」を見せるマラソンコース

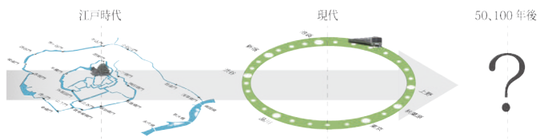
東京の重層空間

既存のマラソンコースを実際に歩き「見上げる / 見回す / 見下ろす」という動作から、東京では交通のインフララインや歴史が重層していることを発見した。そのことを可視化するために、東京の航空写真にインフラの種類別に色分けしたラインを載せて示した。



インフラによる東京のイメージ

交通インフラが複雑に絡み合い重層する空間をつくり出している東京。ひとつひとつのインフラには歴史がある。江戸時代においては、江戸城の濠に橋や門が設けられ、今もその名が地名として残ることから、人々がそれらをつなぐ濠の形、つまり濠のラインをもとに江戸という都市を認識していたと考えられる。現代においては、交通網が発達したことによって、日々誰もが利用する電車の駅を結ぶ路線図のライン、特に環状となっている山手線のラインによって、人々は東京の場所の位置関係やイメージなどを認識していると考えた。では、50 年、100 年後の東京は、一体どんなラインによって人々に認識されるのだろうか？わたしたちは東京の重層空間を走り抜けるようにマラソンコースをデザインすることで、その空間にいるランナーも観客も、そしてテレビ画面からも、東京らしいダイナミックな重層空間を感じられるマラソンコースを提案。マラソンが終わったあとにはこのコースが東京をイメージさせるラインとして残るようなきっかけをつくる。

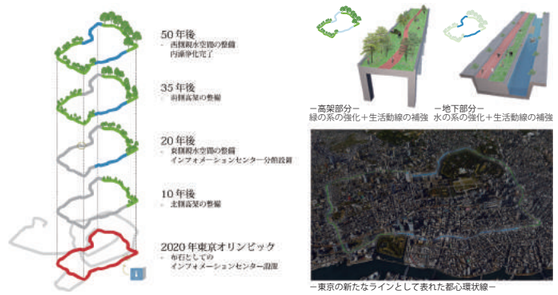


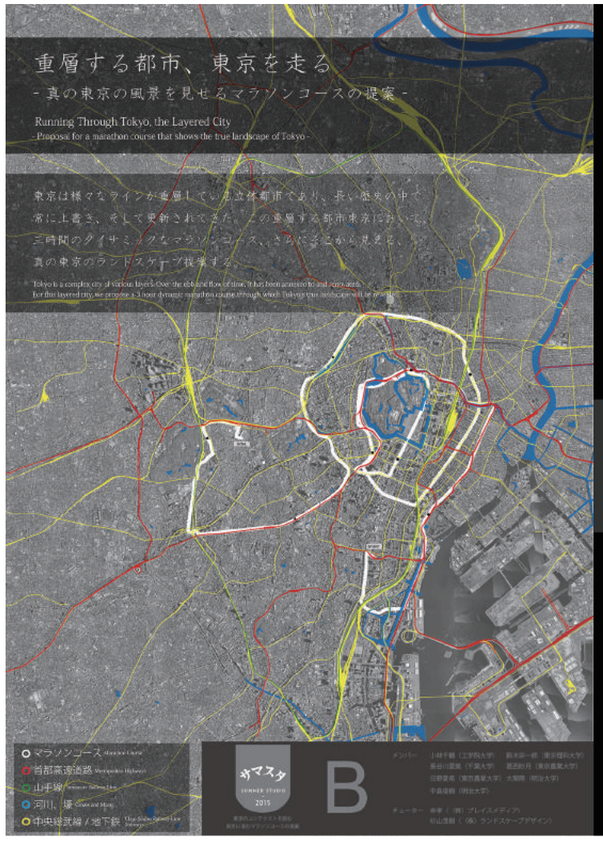
東京の風景を見せるマラソンコース

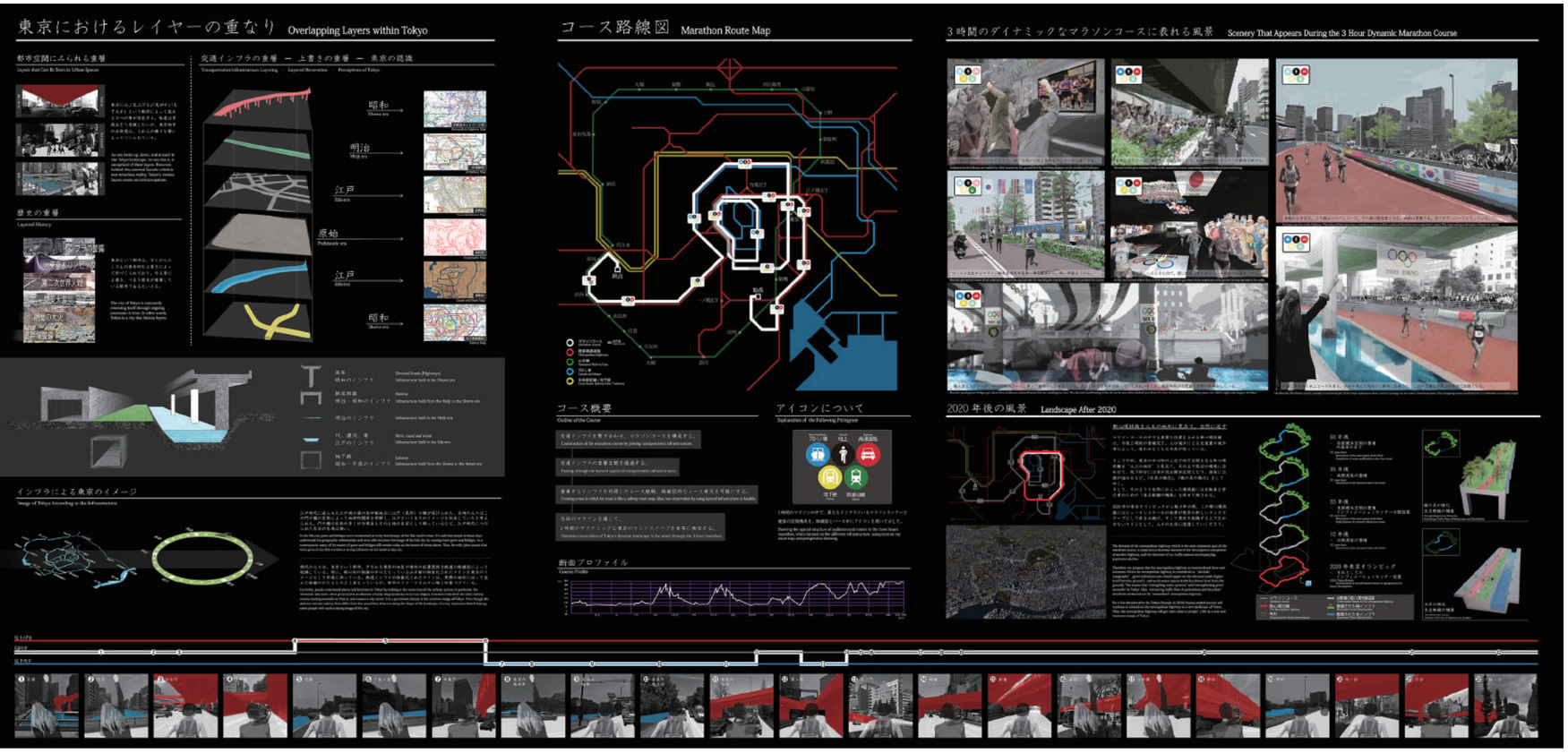
わたしたちのコースは、交通インフラ (首都高速道路・鉄道路線・河川 / 濠）のラインが重なる点を結ぶことで 42km を構成する。異なる交通インフラの重層空間をランナー、観客、テレビカメラが同時に体感することによって、東京らしい 3 時間のダイナミックなマラソンコースを演出できる。地下を走る特別観戦列車からその上を走るランナーを応援し、江戸時代の交通インフラである河川からもランナーを観戦するといった、様々なインフラを活用した観戦方法も提案する。観客にとっては、自分にとって身近な電車の路線図を通してランナーの位置関係を把握でき、ランナーにとっては、高速道路の高架の日陰や水辺空間から涼しさを受け、重層する東京の景色のなかを走りぬけ、様々な位置から応援を受けることは、選手のベストランにつながるだろう。

2020 年東京オリンピック後の風景

マラソンコースの中にも組み込まれた都心環状線は、今後三環状線の整備完了、人口減少による交通量の減少によって、使われなくなると予想される。東京中心部の上空や地下空間を走る都心環状線を〈人工の地形〉に見立てることで、地下部分は親水性のある「水の系の強化」、高架は緑溢れる「緑の系の強化」、自転車と歩行者のための「生活動線の補強」も合わせて施していく。2020 年東京オリンピックを機に、ヒューマンスケールの新たなランドスケープとして環状線が成長し、東京を認識する上で欠かせないラインとして、人々の生活に浸透していく。







C TEAM

1．石川　卓実　（Takumi Ishikawa）
2．日本大学大学院理工学研究室科建築学専攻　M1
3．大学の教授からのお誘いで

1．上野　優紀　（Yuki Ueno）
2．東京農業大学造園科学科　B4
3．修行したかったから

photo
1．なまえ
2．大学、専攻、学年
3．サマスタに参加したきっかけ

1．須藤　啓志　（Keishi Sudo）
2．東京大学大学院農学生命科研究室科　M1
3．研究室の先輩の勧めと、テーマに惹かれたから

1．稲見　育俊　（Narutoshi Inami）
2．明治大学農学部農学科　B3
3．研究室全体で参加することになったから

1．羽山　紅美葉　（Kumiha Hayama）
2．日本大学植栽資源科学科　B3
3．授業の一貫として参加

1．五間　直美　（Naomi Goma）
2．東京農業大学造園科学科　B3
3．研究室の先輩からのお誘いで

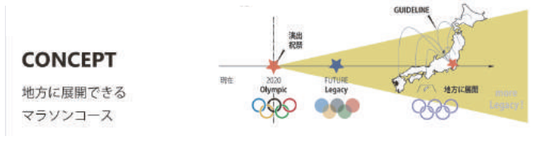
1．大木　一　（Ohki Hajime）
2．㈱アプル総合計画事務所
3．この分野の幅の広さを示してあげたかったから

1．高橋　秀幸　（Hideyuki Takahashi）
2．東京農業大学造園科学科　B3
3．友人からの誘いと、興味があって参加

地方を元気にするマラソンコース

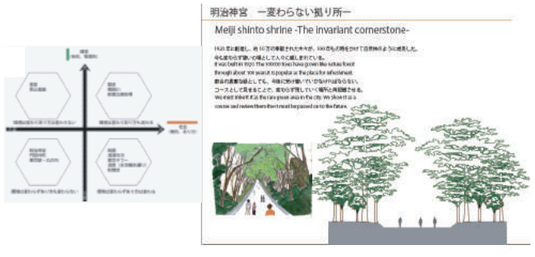
地方を元気にしていくレガシー

オリンピック・パラリンピックにおいて、長期にわたる特に、ポジティブな影響をレガシーという。レガシーとは、IOC オリンピック国際委員会で、近年、最も力を入れているテーマのひとつであり、レガシーを大きく、スポーツ・社会・経済・都市・環境の５つに分けている。わたしたちは、このレガシーに着目し【目に見える・見えないに問わず残していくもの＝レガシー】と捉えた。マラソンは、都市の中を舞台とし、直接かかわれる、数少ないスポーツである。このマラソンを通じて、都市という空間にランドスケープ・レガシーを生み出すことができる。また、オリンピックという祝祭を起爆剤にして、今回の舞台である東京という一都市に留まらず、日本のあらゆる地方都市を盛り上げていきたいと考えた。



レガシープランを考える

レガシープランを考える際、①エリアを抽出②コース設定③レガシープラン④当日の演出の４つのメソッドに分けて整理してみた。
まず、①エリア抽出では、環境条件・人的条件・時間の積層にエリアをプロットしていった。そこで、そのまちのはじまりとなったエリアと、未来へとつないでいくエリアを②のコース設定で結んでいく。①と②で調査・分析したことを元に、わたしたちは、それぞれ将来像・レガシーを有形・無形という横軸、変えていく・変えずに残すの縦軸の４つに分類することで、④のレガシープランを考えていく。そこで、できたダイアグラムが下図である。この、ダイアグラムを使って、メソッドに沿って、各エリアをあてはめていく。そうすることで、各エリアの特徴が見えてきて、未来にポジティブな影響を与えるレガシーについて、わたしたちなりのレガシープランへと導いていきます。



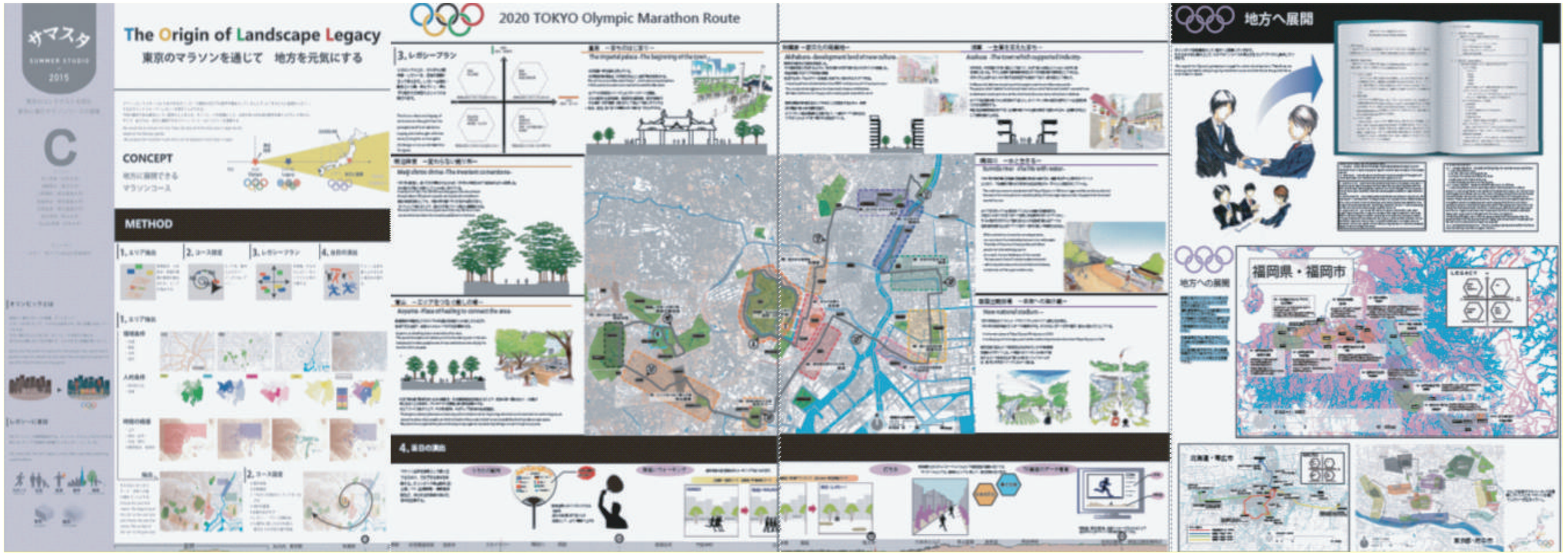
地方への展開とガイドラインの作成

私たちが考えたレガシープランをもとに地方へ展開できるマラソンコースのガイドラインを作成します。そこでは、地元住民の方々からの意見を聞き、わたしたちの考えたレガシープランに落とし込んでいきます。マラソンコースを地方へ展開することによって、東京だけにとどまらないポジティブなレガシーが日本各地へ広がっていきます。そうすることでオリンピックが終わった 2020 年以降も、持続的にポジティブな影響をもたらすと考えます。全国各地で、ガイドラインを下に行ったマラソンが様々な色の五輪が広がっていき、今は点々としていますが、それがひとつの輪になって日本全体を元気にしていきます。

地方に落とし込む

実際に地方に、わたしたちの考えたレガシープランを落とし込むとどのようなコースができるのか検討した。
ここで考えた地方は、チームのメンバーの地元で考えてみた。
じもとでのマラソンコースを考えることで、一番身近な意見が聞けて、私たちの考えたレガシープランがどのように活用できるか考えられる重要な意見となると思った。

今回は、福岡県・北海道・東京都内のマラソンコースでは通らなかった府中市で考えてみた。
福岡県福岡市では十分なマラソンが行うことができる。
少子高齢化や伝統文化の消失に対してアプローチできるような、都市の問題解決にむかえるコースとなった。
次に、北海道帯広では、帯広を中心とした近隣４市を俯瞰できるコースとなった。また、東京都府中市でも、ある程度規模が小さい都市でもハー　フマラソンなどでコースの考え方を展開できた。



D TEAM

photo	1．なまえ 2．大学、専攻、学年 3．サマスタに参加したきっかけ

1．我妻　祐一郎　（Yuichiro Azuma）
2．横浜国立大学　都市イノベーション学府　M１
3．大学のOGの方からのお誘いで

1．有賀　淳　（Jun Ariga）
2．慶応義塾大学　政策メディア研究科　M１
3．知り合いの方の勧めで

1．赤塚　志帆理　（Shiori Akatsuka）
2．立教大学　スポーツウェルネス学科　B4
3．新たな見方、知識の獲得のため

1．巽　大樹　（Hiroki Tatsumi）
2．東京農業大学　造園科学科　B3
3．モチベーション維持のため

1．島崎　華奈子　（Kanako Shimazaki）
2．東京農業大学　造園科学科　B3
3．やったことがないことに挑戦したかったから

1．吉川　昴広　（Toshikawa Takahiro）
2．明治大学　農学科環境デザイン研　B3
3．先生に参加を勧められたから

1．間野　明奈　（Akina Mano）
2．日本大学　生物資源科学科　B3
3．授業の一環として

1．粟谷　潤子　（Junko Awatani）
2．junko awatani
3．大きなスケールの幅で考えるテーマに興味を持ったから

1．小澤　亮太　（Ryota Ozawa）
2．フィールドフォーデザインオフィス
3．自分が学生の頃にも参加していたから

東京の多様な都市空間を切り取るマラソンコース

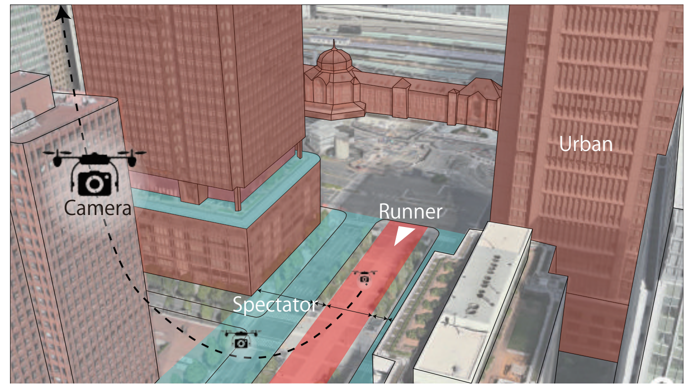
オリンピックマラソンの映像は世界中の人々に向けて発信される。そこには時速 20km で走るランナーを軸に様々な都市の風景が映し出される。私たちは、その風景へ世界中の人々が没入するようなマラソンコースを提案する。
東京でマラソンをもっとおもしろく。　　DIVE to TOKYO！！！

オリンピックマラソン映像の分析

今までのマラソン映像では競技ルールに則り、観客やランナーに配慮しつつ名所を巡るコースが一般的であった。映像を構成する要素は、大別するとランナー・観客・都市の３つに、さらに複雑な都市という要素は、マラソン映像の視点から以下の５つに分解できる。
Area：地名やランドマーク等の名前など人々の認識のしやすさとイメージ。
Block：面的な広がりで見たまちの構造、コース形状や観客の滞留に影響。
CourseWidth：道幅はランナーやカメラ、工作物や街路樹は観客の滞留に影響。
Cityscape：建物ファサードや樹木、垣間見える遠景など都市の表層。
Landform：ルール上のみならず、レース展開やカメラの画角にも影響。

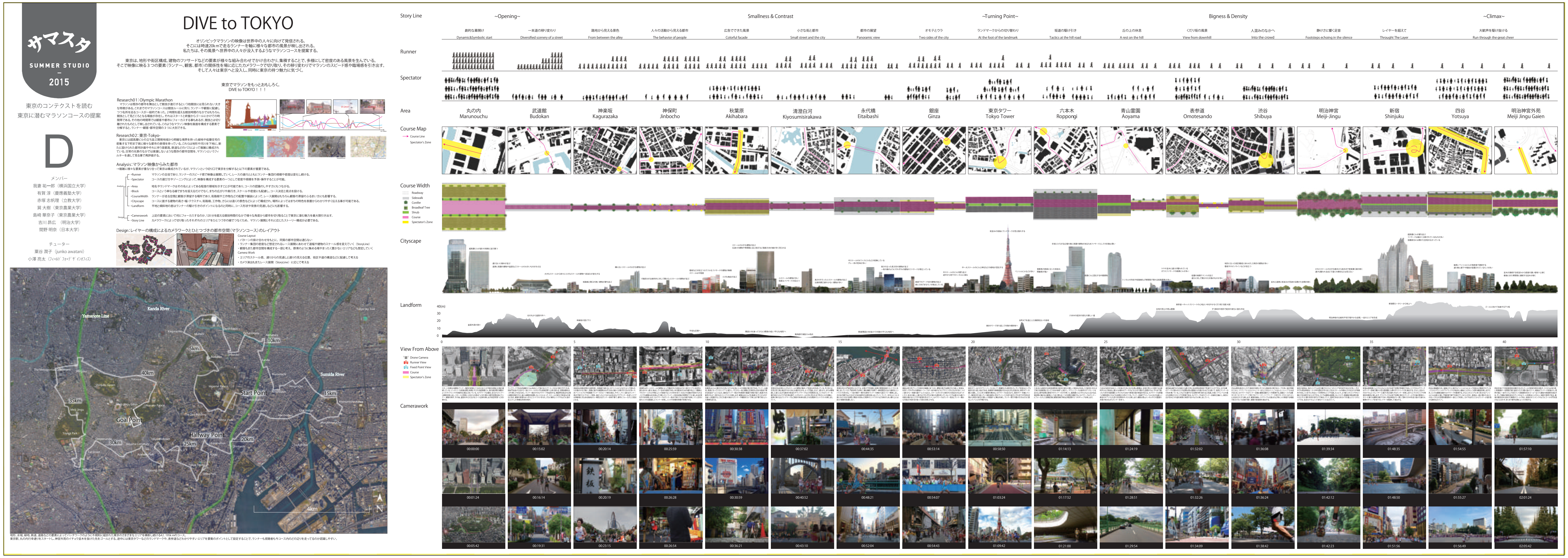
都市空間に応じたカメラワークの展開

東京には超高層ビルの立ち並ぶ開発地域から明確な境界を持った緑地や低層住宅の密集する下町まで実に様々な都市の表情がある。５つの要素分解から様々な都市空間パターンを東京のなかから探し出し、それらに応じて、カメラワークもまた地上のアイレベルからだけではなく、最先端ドローンカメラによる俯瞰ダイナミックな視点変化や路地から一瞬垣間見えるランナーを映し出すなど様々な構図が考えられる。既存空間の分析からカメラワークをみつけ、つなげていくことで今までにないマラソン映像を創り出す！！！



42.195km×20km/h が魅せる東京のシークエンス

それぞれの都市空間とそれに応じたカメラワークを決定したら、42.195km という一連なりの巨大なスケールの線でつなぐ。例えばマラソンのレース展開において最も盛り上がるスタートとゴールはシンボリックかつダイナミックな都市を映すなど。スタート以降徐々に減るランナー集団や、想定されるレース展開を踏まえて、都市空間要素のパターンを変化させていくことで、多彩な都市シークエンスがマラソン競技の舞台として機能する。
約２時間という長い競技時間を、単調な風景で埋めてしまう必要はない。東京には多様で豊かな都市空間が潜んでいる。
既存の都市を最大限生かした演出を、カメラワークと都市空間のコントラストで実現することで、画面越しの世界中の視聴者は TOKYO へと没入できる。



E TEAM

1．栗田　恵　（Kei Kurita）
2．東京理科大学　都市計画研究室　M 1
3．研究室の先生の紹介

1．三田　恭裕　（Yasuhiro Mita）
2．千葉大学　庭園デザイン学研究室修士　M 1
3．大学で知って

1．渡邊　春菜（Haruna Watanabe）
2．東京農業大学　造園工学研究室 B3
3．授業でチラシをみて

1．平松　尚幸　（Naoyuki Hiramatsu）
2．日本大学理工学部建築学科　B4
3．研究室の教授の紹介

1．村上小百合（Sayuri Murakami）
2．千葉大学　庭園デザイン学研究室 B3
3．大学のOG の方からのお誘いで

1．西本　ちあき（Chiaki Nishimoto）
2．東京農業大学　ランドスケープデザイン B3
3．研究室の紹介

1．東谷　涼加（Suzuka Toutani）
2．日本大学　3年
3．学校の授業の一環

1．渡辺　美緒（Mio Watanabe）
2．渡辺美緒デザインスタジオ
3．多様な「視点」を意識した設計に興味があった。

1．田中　宇一
2．明治大学　B3
3．研究室の先生の紹介

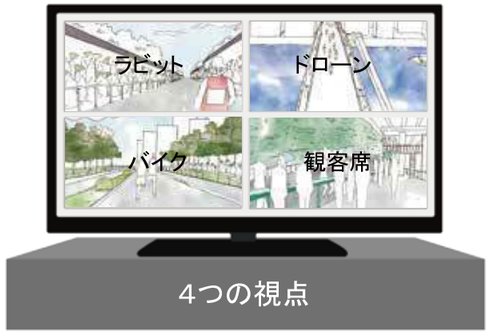
1．新田　知生（Tomoo Nitta）
2．向日葵設計
3．建築と造園が密接に関われそうなテーマのため

1．星　衛（Mamoru Hoshi）
2．向日葵設計
3．新田さんの紹介

「メディアに向けた」マラソンコースの提案

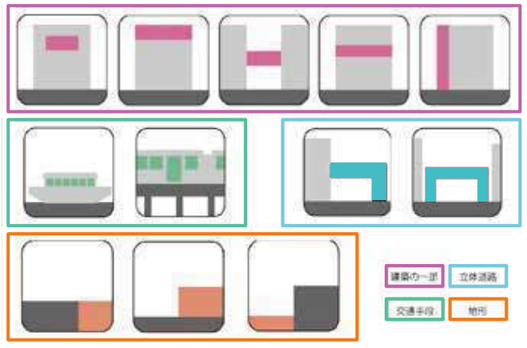
東京の多様なスケールと進化するメディア技術

私たちはマラソンコースを提案する上で、東京の最大の魅力であるスケールの多様さを世界に発信するコース選定とそれを伝える4つのメディアを提案する。



東京の多様な視点場

東京の視点場は多様であり、2度の現地調査でどのような 視点場が東京にあるかを調査した。私たちは主に建築の一部、立体道路、交通手段、地形である。これらの視点場を東京オリンピックのマラソンに向けて新たな観客席としてデザインしようと考えた。今までのインフラとしてのみの機能から高低差を持った観客席としての機能を与えることで東京の風景に新たな価値観を与える。

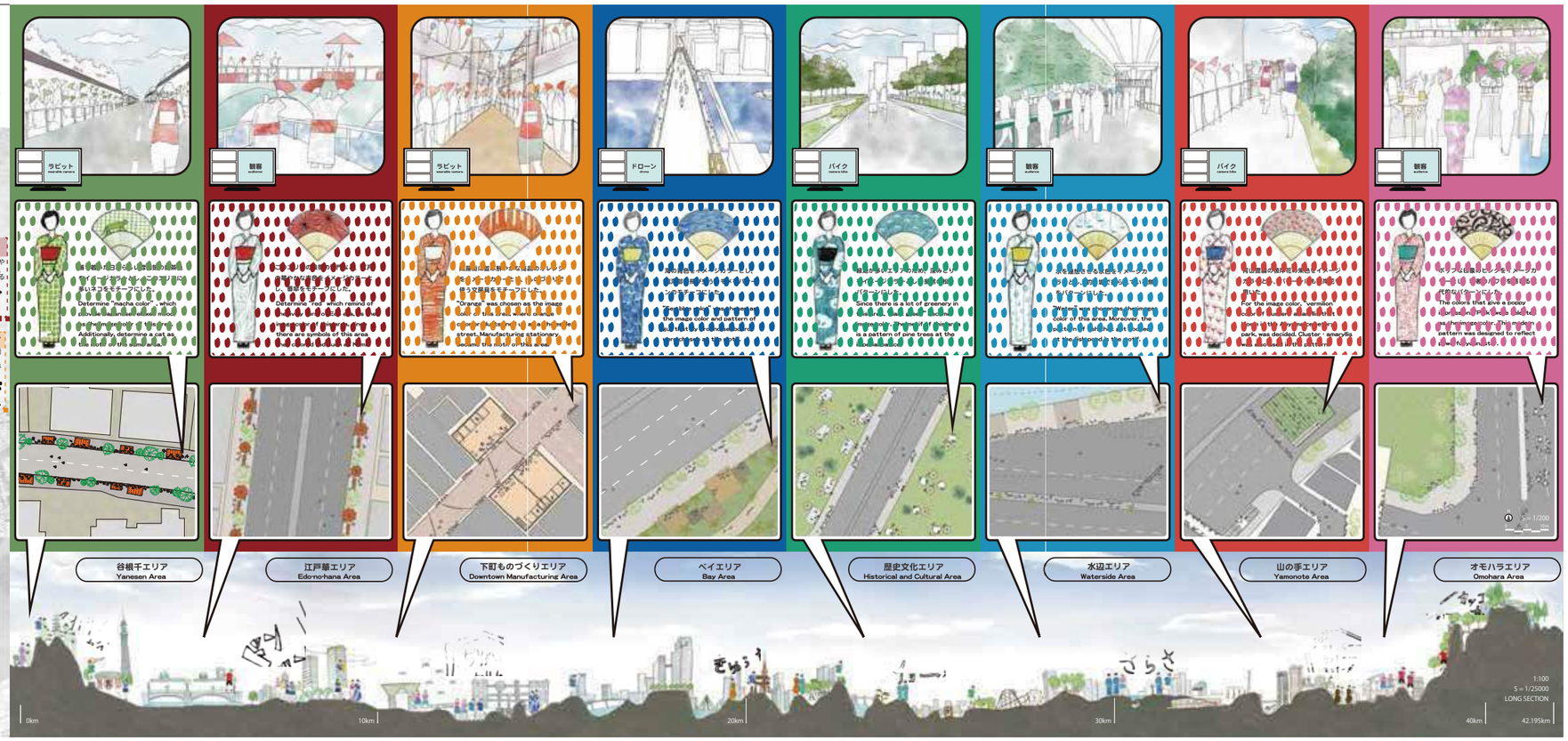


観客のためのプロダクトデザイン

TV中継でうつるマラソンコースにおいてどの場面でもランナーの背景には観戦者がうつる。私たちは「いかなる時もTVに映る観戦者」に着目し、観戦者に向けたプロダクトデザインを提案する。
プロダクトデザインは8つのエリアに合わせて提案する。
プロダクトは扇子、浴衣、そしてコース沿いに鳴らす音である。
扇子と浴衣は設定した8つのエリアのモチーフからデザインした。

マラソンコースの8つのエリア

コースは８つのエリアに分けられています。スタートは上野公園から谷根千を通る「谷根千エリア」。続いて浅草を駆け抜ける「江戸華エリア」、問屋街のある「下町ものづくりエリア」、競技場や商業施設が多くある「ベイエリア」、増上寺や皇居を通る「歴史文化エリア」、神田川や堀沿いを走る「水辺エリア」、起伏に富んだ「山の手エリア」、流行の先端、表参道・原宿を通る「オモハラエリア」です。
また、このコースにはランナーよりも先回りして２度ランナーを応援したり、通り過ぎた後も街を楽しめる裏道を設けることができます。



F TEAM

1．田丸　真菜　（Mana Tamaru）
2．東京農業大学大学院　ランドスケープデザイン専攻 M1
3．チューターさんからのお誘いで

1．宗　歆月　（Song Xinyue）
2．東京理科大学大学院　建築学専攻　M1
3．

photo
1．なまえ
2．大学、専攻、学年
3．サマスタに参加したきっかけ

1．山内　聡子　（Satoko Yamauchi）
2．東京農業大学　造園樹木学専攻 B3
3．色々な分野の学生と話し合い、視野を広げたい

1．垣内　詩織　（Siori Kakiuchi）
2．明治大学　環境デザイン専攻　B3
3．教授からの勧めと他大生から刺激を得られると思って

1．羽賀　拓人　（Takuto Haga）
2．中央大学　海岸湾岸工学専攻　B3
3．自分とは違う分野を学んでる学生の考え方を知りたかった

1．馬場　美佳　（Mika Baba）
2．東京農業大学　ランドスケープデザイン専攻　B2
3．自分の力の向上に繋がると考えました

1．向山　雅之　（Masayuki Mukoyama）
2．（株）竹中工務店
3．ランドスケープの社会貢献力拡大を図りたい

1．三島　らすな　（Rasuna Mishima）
2．明治大学　生態工学専攻　B2
3．教授から教えて頂き、勉強になると思ったので

1．長谷川　理彩　（Risa Hasegawa）
2．東京大学　教養学専攻　B1
3．新しい分野も学びたいと思い参加しました

1．伊藤　司貴　（Kazuki Ito）
2．（株）長谷工コーポレーション
3．きっかけ

マラソンコース

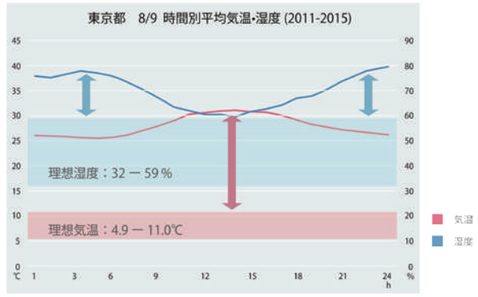
オリンピックってそもそも…？

オリンピックをテーマにするにあたって、オリンピックそのものを理解しマラソンコースの提案を考えることとした。
オリンピックとは、平和を求めて人々にとっての幸せやそのあり方を考えさせる催事であった。しかし、時代の変化とともに、テレビの放映権や夏休みに合わせるなどの商業的な利益を追い求めるようになった。オリンピックを契機に伝えるべきものは多額の投資によるインフラの整備やまちづくりだけなのだろうか？
本来の意義を伝えるためにスポーツの持つ力を最大限に発揮できる場を作る。そのためにマラソンに関する様々な研究を調査した。私たちは岡田邦夫氏の論文から「マラソンにとって良い競技環境」へ近づけることをテーマとした。

気温	4.9ー11.0℃
湿度	32−59%
風	そよ風

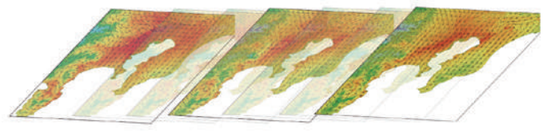
東京の環境を考える

高温多湿なアジアに位置する東京で行われる夏季オリンピックは、競技者だけでなく観客にとっても熱中症などの危険が伴う。下のグラフは男子マラソンが行われる予定の８月９日の２０１１ー２０１５年の平均気温・湿度である。マラソンを行うには過酷な環境である。
しかし、実際に気温や湿度を変えることは難しい。
そんな中で私たちは何を考えるべきか？
解決するために"涼やかさ"をキーワードに提案していく。日陰や河川のそば比較的涼しいし、見た目にも涼しく感じるもの・暑苦しいものがある。これらの涼やかさを感じられるもので東京の暑さを緩和できるだろう。



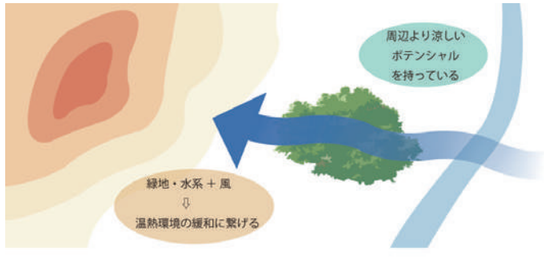
夜のマラソン

私たちは夜のマラソンを提案する。
現在予定されている７－９時だと走り始めからの大幅な気温上昇や観客にとって集まりにくい時間だと考えた。夕方から走り始めれば、走るにつれて涼しくなるし、遠くから応援に来る人にとってもこの時間なら来やすいだろう。
下記の環境シミュレーションから「気温・湿度・風向」を読み解き、競技時間を１８時ー２０時３０分とした。水系・緑地の近くを走り、海風の吹いている間は南下する。隅田川沿いを通り、海風が山風に変わる頃に熱気の抜ける北側を走りぬかる。
また、８月９日２１時からは閉会式が行われる。この競技時間なら閉会式直前に目の前でマラソンの決着がつき、そのまま閉会式でメダルが授与されるのだ。観客にとって最高の盛り上がりだと考える。
世界のトップランナーが走るオリンピックで競技時間が２時間３０分を超える選手はいない。
また、過去のオリンピックで夜にマラソンが行われた例もあり。不可能ではないと考えた。



東京が環境都市になる

ランナーや観客にとって良い環境を考えた。これはオリンピック時だけでなくこれからの東京にも必要なものである。地球温暖化や都市化に伴う様々な弊害によって、私たちは豊かで危険なまちに住むこととなった。その都市を安全で住み良いまちにするために水系や緑地を大切にすること、風の道を考慮すること、夜の過ごし方を考えることが環境都市への第一歩だと考える。
２０２０東京オリンピックの際にこれらのまちづくりに対する考え方を世界に発信することが最初に着目したオリンピズムに繋がる。
暑い東京に涼やかな環境を！



G TEAM

1．柳原　仁　（Jin Yanagihara）
2．東京理科大学　建築学専攻都市計画研究室　M1
3．大学の OB の方からのお誘いで

1．吉井　信人　（Nobuto Yoshii）
2．東京農業大学　造園科学科　B4
3．去年のチューターからのお誘いで

1．西岡　一穂　（Ichiho Nishioka）
2．千葉大学　緑地環境学科　B3
3．先生の紹介で

1．井野　貴文
2．株式会社　GLAC
3．学生が活躍する場を増やす手伝いがしたいと考えたから

photo
1．なまえ
2．大学、専攻、学年
3．サマスタに参加したきっかけ

1．佐藤　千香　（Chika Sato）
2．日本大学　建築学科　B3
3．友達の紹介で

1．盛　拓己　（Takumi Mori）
2．東京農業大学　造園科学科　B3
3．パスのデザインに興味があったため

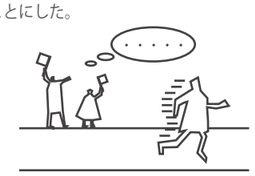
1．小出　ひかり　（Hikari Koide）
2．東京大学　社会基盤学景観研究室　M1
3．テーマと他大学の学生の考え方に興味があった

援道

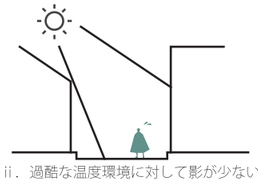
応援時の問題

マラソン選手にとって、人々からの応援は走る力になる。その応援を行う観戦者の立場に立って見た時、実はたくさんの問題点、改善点があることに気付いた（以下に示す）。そこで今回私たちはコースをあえて変更せず、応援のベストの形とは何かについて追及をすることにした。

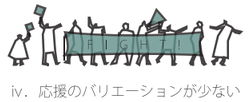
ⅰ．観戦者への配慮が乏しい



ⅲ．沿道からの応援が一瞬で終わる



ⅱ．過酷な温度環境に対して影が少ない



ⅳ．応援のバリエーションが少ない

４つの提案

快適な応援場所・休憩スペースを創出し、応援時の課題を解決するだけでなく、東京に集まった人と人が、また人と文化が互いに関わりを生んでいくような仕組みを空間デザインやプログラムを提案を通して生み出していく。

(1) 援道
ランナーが通過する二地点を結ぶ。観戦者がショートパスとして利用し、選手の先回りをすることができる。この援道の中には、移動時に様々な人や文化が関わりを持てるように休憩できるスペースはもちろん、地域色の出たブースなどを置く。この試みはオリンピック後も週末に開かれる歩行者天国という形で残り、ずっと関わりを生み続ける場所として活用されていく。

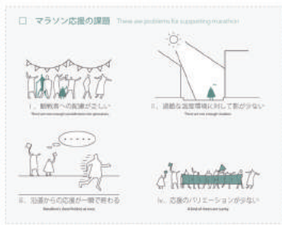
(2) 庇
ユニバーサルデザインの応援スペース。夏の日差しなど、大会当日に予想される過酷な応援環境を改善する。また大会後もイベント時などに活用される。

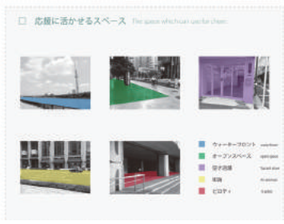
(3) インフィオラータ
花でコースを彩り、選手への視覚的な応援とする。まず地方の花卉農園から東京の子供たちに花の苗が届けられる。子供たちによって大事に育てられたその苗は花を咲かせ、当日コース全体を華やかに演出する。曲がり角のポイントなどには応援をしに来るあらゆる人が前日から力を合わせて作った花絵が飾られ選手の励みになる。

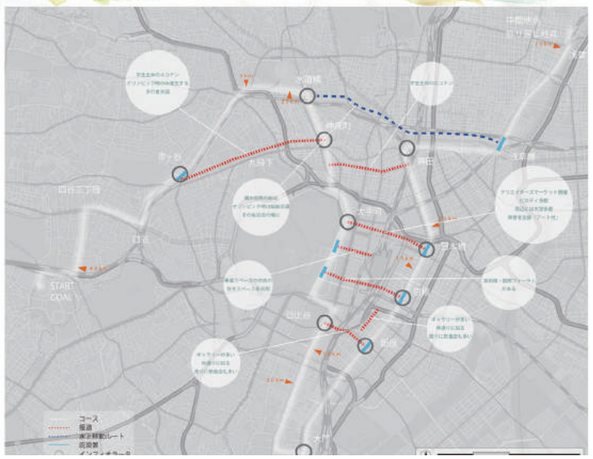
(4) ポケットパーク
都市のデッドスペースを活用し、その場所をすべて大会時にしっかりと座って休憩ができる場所にする。また大会後は集まって昼食をするなど、誰もが気軽に使える場になる。加えて、ポケットパークには地方のアーティストによって作られたファニチャーがおかれることで広告空間として機能し、地方で活動する人々を支える仕組みとして重要な役割を果たす。

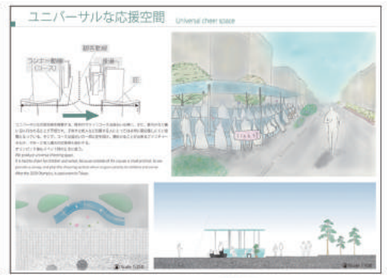
将来像

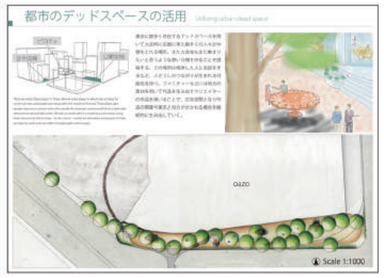
オリンピック大会の前から応援準備などによって地方に暮らす人と東京暮らす人との間につながりが生まれる。また応援に来る人同士もが関わりを持ち始める。そして、大会当日は関わりを持った人々が同じ高揚感を共有しさらにその関わりを深いものにする。また弱い立場の人も積極的に観戦場所に足を運び皆と一緒に応援することができる。応援を通してできた人々の関わりは継続しまた新たなつながりを育んでいく。

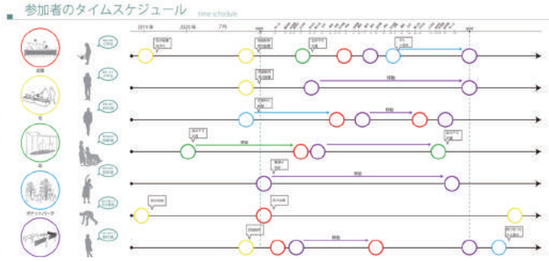


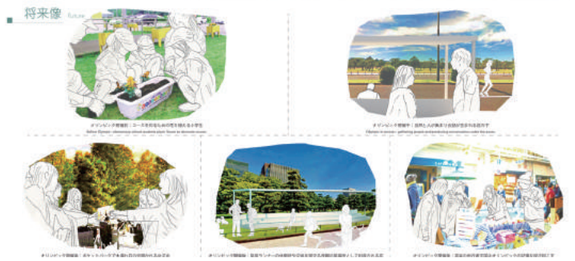






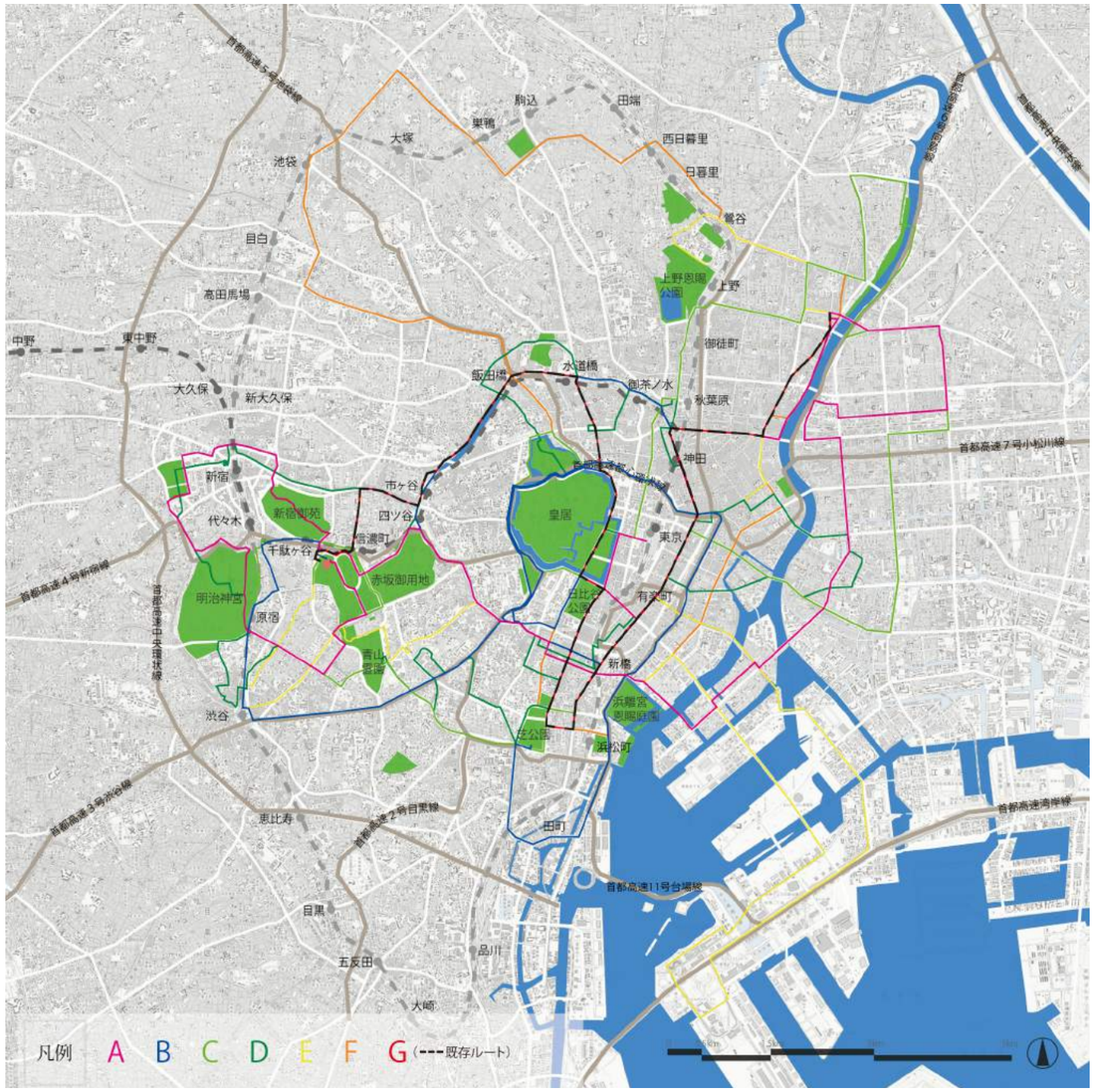






コース分析１

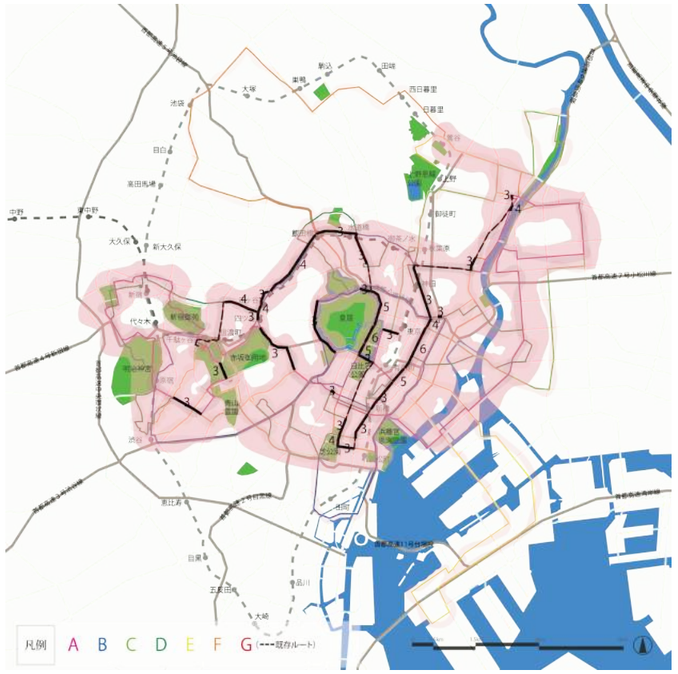
● チームルートの重ねあわせ



● 0・10・20・30km 地点分布

スタート地点 — 0　10km 地点 — 10　20km 地点 — 20　30km 地点 — 30

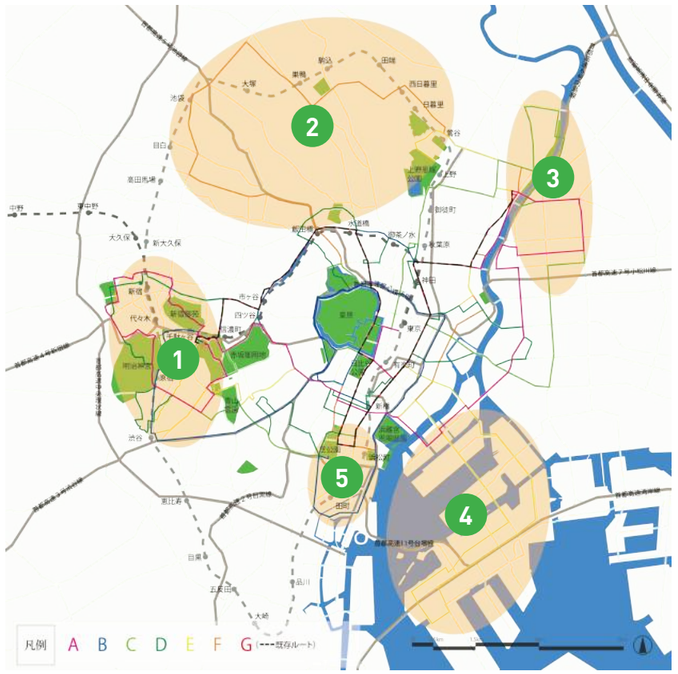
● 既存ルートとの重なり



全チームのルートを重ねあわせて、2本以上重なったエリアを緩やかにつないだものがピンクのエリア。3本以上重なった箇所は、黒く塗りつぶし、重なった本数を横に記載しました。
すると、7チームがそれぞれ異なる切り口で「東京の魅力を体感・発信できる」と考えた道をつないでいったルートですが、3本以上重なったルートは、そのすべてが点線の既存の立候補ファイルのマラソンルートと重なる結果となりました。特に皇居前広場、東京駅東側、飯田橋と市ヶ谷をつなぐ外濠通りなどはルートが集中しました。

このことから、既存の立候補ファイルのマラソンルートは、7つの異なる切り口から見ても、「東京の魅力を体感・発信できるルート」であるということができます。

● 新たに発見したエリア



最後に、既存の立候補ファイルのルートから外れたルートを分析してみます。
ルートから外れたエリアを大きく5つに分けることができました。

1. 青山・新宿エリア
2. 江戸郊外エリア
3. 浅草・深川エリア
4. 港湾・湾岸エリア
5. 芝・浜松エリア

この5つのエリアが、わたしたち学生が今回のサマースタジオを通して発見した、マラソンルートという視点で見た東京の魅力を体感・発信できるエリアです。

コース分析 2

1 青山・新宿エリア

チームによって様々なコース選択＝どこを通っても個性的な魅力が感じられる。

A の意図：前半で東京の昔の雰囲気を見せ、後半で近代の景色を見せる。前後半での風景に変化を与え、東京の社会的なエネルギーを発信する。

B の意図:東京を認識するうえで重要な「山手線」に沿ってランナーが走ることで、観客は路線図をイメージしながら観戦でき、距離感や空間のイメージを容易に持てる。そのイメージはランナーと観客の一体感をつくりだす。

C の意図：六本木ヒルズなど人が集まる場所から独特な雰囲気である青山霊園へとルートを通すことで回遊性を生み出し、東京の新たな魅力を発信していく。

D の意図：霊園、神宮などある特定の境界をもつ緑地と、渋谷や新宿など地形に合わせて独特なスケールでまちを形成しているエリアが混在しているので、短い距離で都市空間の質の変化が表現しやすい。

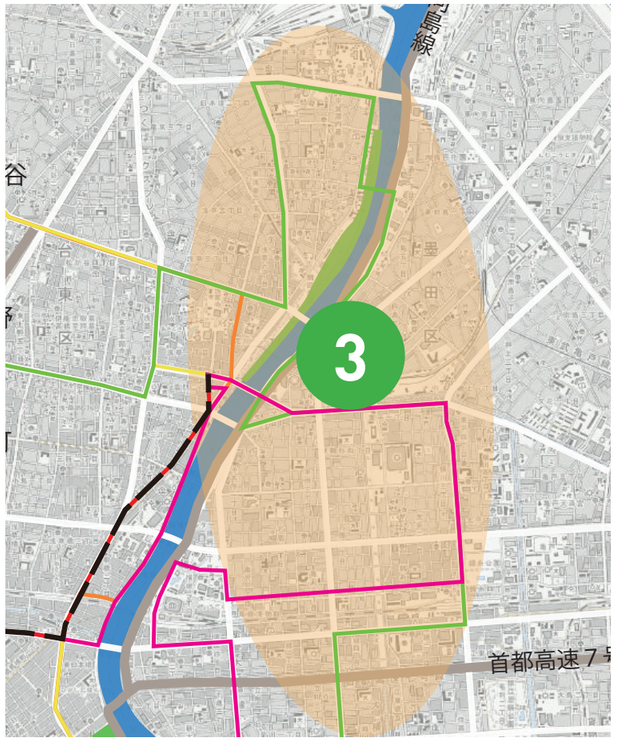
E の意図：：霊園という緑地にマラソンを通じて新たな価値観を提示したい。

G の意図：既存のルートを変更せずに、応援が一瞬で終わるという問題点を改善することで東京とマラソンの魅力を伝えていく。援道という名のショートパスを作り、観戦者の居場所を作ることで、応援しやすい空間を作り出した。

2 江戸郊外エリア

江戸時代の郊外として、今も下町やお屋敷の残るエリア。また池袋や日暮里といった交通の拠点も存在する。

F の意図：このエリアを走る 19 時以降は、東京を抜ける風が海風から山風へ変わる。内陸の熱気が港湾側へ流れるので、江戸郊外エリアから温度が下がる。そこに涼やかさを見出した。

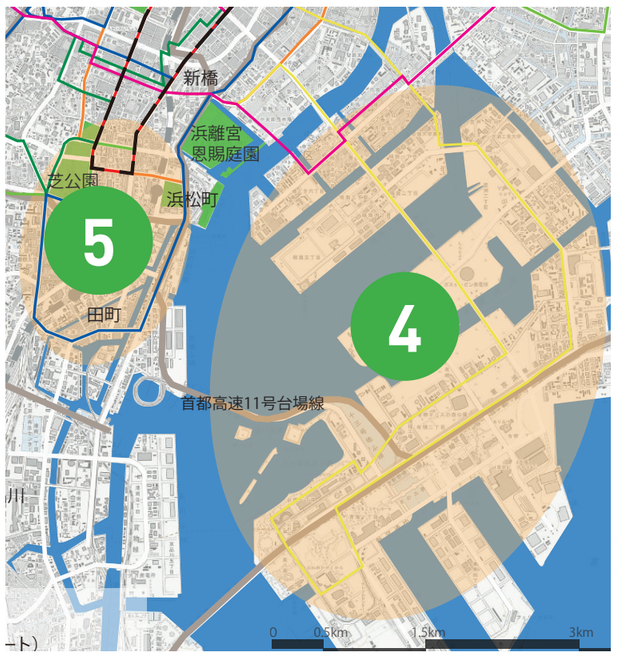


3 浅草・深川エリア

水運が発達していた江戸時代の荷降ろしの場でもあったことから、様々な商業が発達した下町。現在は新しい都市開発によって新旧の対比が見られるエリア。

A の意図：東京の変遷を感じられる景色、古くからの下町文化と生活風景を見せることでより現実的な東京を発信する。

C の意図：昔からの生業があるこのエリアで、現代でどのように新旧の日本の文化を感じさせてくれるか、日本の文化の新たな一面を見出し、発信する。



4 港湾・湾岸エリア

江戸湾を埋め立ててつくられた土地に、海に囲まれた新しい街が形成されたエリア。

E の意図：埋立地の大きなスケールも東京の特徴と捉え、東京の多様なスケールのひとつとして埋立地を発信する。

5 芝・浜松エリア

かつては海岸であった土地が、埋め立てにより内陸となった。交通インフラが集中し、東京タワーなどの巨大構造物によってダイナミックな景観の見られるエリア。

B の意図：東京の交通インフラ整備の契機であった高度経済成長期、その初期である 1958 年に建てられた東京タワーをスタート地点に、東京の成長を支えた高速道路インフラをマラソンコースでなぞることで、歴史と空間の重なりを発信する。

サマスタで得た７つのこと

1 自分の立ち位置を知れたこと

「違う分野の目線で見ると、そんなふうに見えるのか」「自分の得意・不得意なところはここだったのか」ワークショップ中には、幅広い人々とじっくりと関わることで、自分の立ち位置を知ることができます。

2 実務者からのアドバイス

設計の組み立て方やアプローチ方法、そして実務の裏話まで .. ワークショップ作業中や打ち上げで気軽に聞くことができます。その分無茶ぶりも多い気がするのは気のせい .. ？

3 限界を超えたこと

チームに対する責任感や自分に挑戦することで、追い込み時には限界を超える経験もできる .. かも。

4 仲間からの刺激

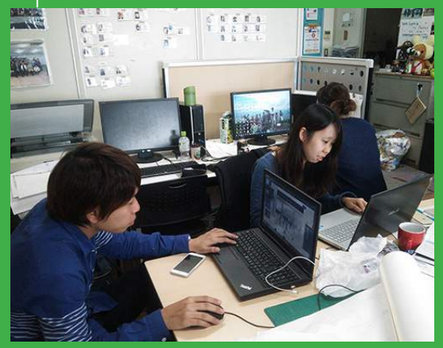
先輩・同学年・後輩そしてチームを超えた仲間たちが、互いに声を掛け合い協力関係でもあり競争関係でもあるような切磋琢磨できる関係性が築けます。

5 出会いの場

大学も学科も学年もばらばらで、話が噛み合わないこともあったものの最後には枠を超えて意気投合してしまいます。

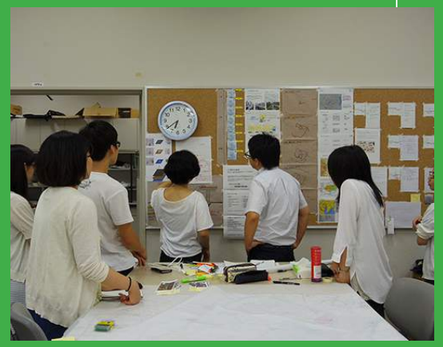
6 忍耐力

とにかく長い。自分を追い込み、忍耐強く問題に向き合うことで、密度の濃い夏休み＋αを経験できます。



7 視野の広がり

たくさんの方向から物事を見る訓練ができるので今までの考え方ややり方にとらわれない柔軟さが身につきます。



サマースタジオ１００日間の道のり

7/18 Sat

8/8 Sat

8/9 Sun

8/10 Mon

8/11 Tue

8/12 Wed

8/13 Thu

8/14 Fri

8/15 Sat

8/22 Sat

9/12 Sat

11/22 Sun

Core Working Week

A

地方出身が多いので、東京を知ることから始める。

敷地調査
実際のルート 20km 完歩

東京にはいくつかの変遷がある。様々な時代のものを見せていくコースをしよう！

変遷によって重要となった道路や施設、公園など分析．東京のイメージとは？

再び敷地調査
スポットとなる場所を探す．

何を見せて伝えるべきか悩む．歴史の整理．建築物、公園を洗い出し何が重要かを選択．

42.195 ㎞を上手く繋げることに苦戦する．
歴史のストーリーやコース設定がまとまらずプレゼンをしてしまう．

時間のコントラスト風景を魅せることで風景の印象を強くすることに．

コントラストの分類わけをしてそれらを繋げたコースを設定．将来的な提案がなくチューターに突っ込まれる．

大学の用事で手を付けておらずプレボの制作で徹夜をする．印刷に手間取る．

B

B 院生が無断遅刻・欠席
初回に不穏な空気漂う

B 敷地調査
実際のルート 20km 完歩

B 「東京は立体的」発見
特に立体なのはどこか？空間の重なりと歴史の重なりを見出す．交通インフラの重なりは東京の c 地形によって複雑化している．

B 通りたい場所選定と理由付け、分類作業．
見えないインフラ、歴史を見せるには？東京のイメージとは？

B 提案のストーリー整理．小さな気づきをどうやってひと繋ぎにまとめるのかものすごく悩む．

B ぎりぎりまで悩みすぎて、プレゼン大失敗．
画面が小さすぎて全然見えないプレゼンをしてしまう．．

B オリンピックが終わったあとの未来の東京のインフラの提案へもっていくべき．

B プレボごとに背景の色が変わってしまい印刷に苦労．結局ほぼ徹夜．

C

C 敷地調査
２日間に分けて実際のルートを歩いてみた

C 東京にはいろいろな時代が積み重なっていることを発見

C ただの観光名所巡りみたいなコースになって悩み始める

C 東京だけにとどまらせるのはもったいないと気づきギリギリで”レガシー”についての提案

C 発表の前日はチューターさんに止められながらも終夜

C レガシーとは何か悩む
最後までずーっと！

C 敷地調査（再び）
エリアごとにレガシーを結びつけるのに苦戦

C 各自作業を分担し自宅で作業

C 最終発表に向けて決起会（飲み会）！

D

D 神宮外苑と既存コース（５km 地点まで）歩いてみる

D 農大都市研で初ワーク！
都心のマップに緑地・水域・インフラなどプロット

D COREDO 室町で乾杯！！！

D アイデア出し（問題・課題、都市要素、視点、アクティビティ）
→ハード or ソフト、内 or 外など軸を設けて分析

D 赤坂〜明治神宮が散歩していて楽しいと判明！
一定距離で起こるシークエンス変化が重要だと気づく

D 新国立から半径１０km 圏内のエリアの性格分析
なにがエリアを決める要素なのかと悩む

D 交通インフラ・地形・水域・緑地・用途地域から
様々なエリアを横断するコースを考える

D ２つの提案
・多様な都市空間を通り抜けるルート
・大会当日の観客の動きを考慮したルート

D マラソン映像から東京の多様なシークエンス変化を見せるため
カメラワークデザインの提案に決定！！！

D チューター粟谷さん「『Lost in Translation』の構図いいよ」と勧めてくれる

D 過去のマラソン映像について調べる
→ランナー・観客・都市の要素に分解

D 徒歩＆自転車で設定コース確認＆カメラ撮影
「かき小屋」で成果報告！

D タクシーで社長出勤（遅刻）

E

E 着物とか着たり扇子とか持って応援したら、おもしろそう。

E 敷地調査
実際のルート 20km 完歩

E オリンピックで１番のオーディエンスは TV である。観客は TV に東京を伝える重要なファクターである。

E 各自でルート外のおもしろそうなところを探す。

E 向日葵設計での作業が始まる。

E 模型でインフラのスケール感をスタディしてみる。

E 事務所近くでの商店街のお祭りに参加

E パネルをデコる。

E 石川初さんのクリティックでメディアへの提案へと話が膨らむ。

E 分担での個人ワーク

E 向日葵設計の事務所でパネルデータ作成を終え、1杯ビールを飲むつもりが終電がなくなり、飲み明かす。

E 向日葵設計事務所でおにぎりワークショップをする。

E 英語に翻訳する。

F

F それぞれの興味のある分野について話す

F 敷地調査
実際のルート 20km 完歩後、書店のカフェで一杯...

F 現況のルートの改善ではない新しいルートを考えたい

F 各自様々なコンセプトのルートを書いて、チーム内でプレゼンしてみる

F 初日に話した各自の興味から東京の都市を見てみるお互いに新しい発見が!

F コースの設定が曖昧
8/22迄にコースを決定しないと...

F Ｆチームにとってのコアワーキングが始まる

F ランナーではない私たちがどれだけランナーのためのルートを考えられるのか難しさを実感しました

F 作業分担して
少人数チームでの作業

F のりパネを買い忘れて作業も遅れて大慌てで作成
徹夜 で会場に乗り込む

G

G 敷地調査
２日に分けて所々飛ばしつつ歩く

G センター内でチューターさんが迷子になり班員に鬼電がかかってくる

G そもそもオリンピックがなんのためにあったのかとコミュニティの希薄化に注目する。

G 江戸のまちや当時のシステムを元に提案を進めようと模索する。

G 空きビル、空きスペースの利用や歩行者天国のアイディアが出てくる。

G このあたりから終夜作業員が出始める

G ハードとソフトがどっちつかずの提案になり、問題意識もオーソドックスすぎるといわれてしまって悩み始める。

G 応援によって人とつながることを提案の主軸におき、既存のマラソンコースを変更しない提案に決定する。

G リーダー、農大組が研究室の用事で 2、3 日一時離脱。危機が訪れる。離脱中にもチューターから LINE が入り続ける。

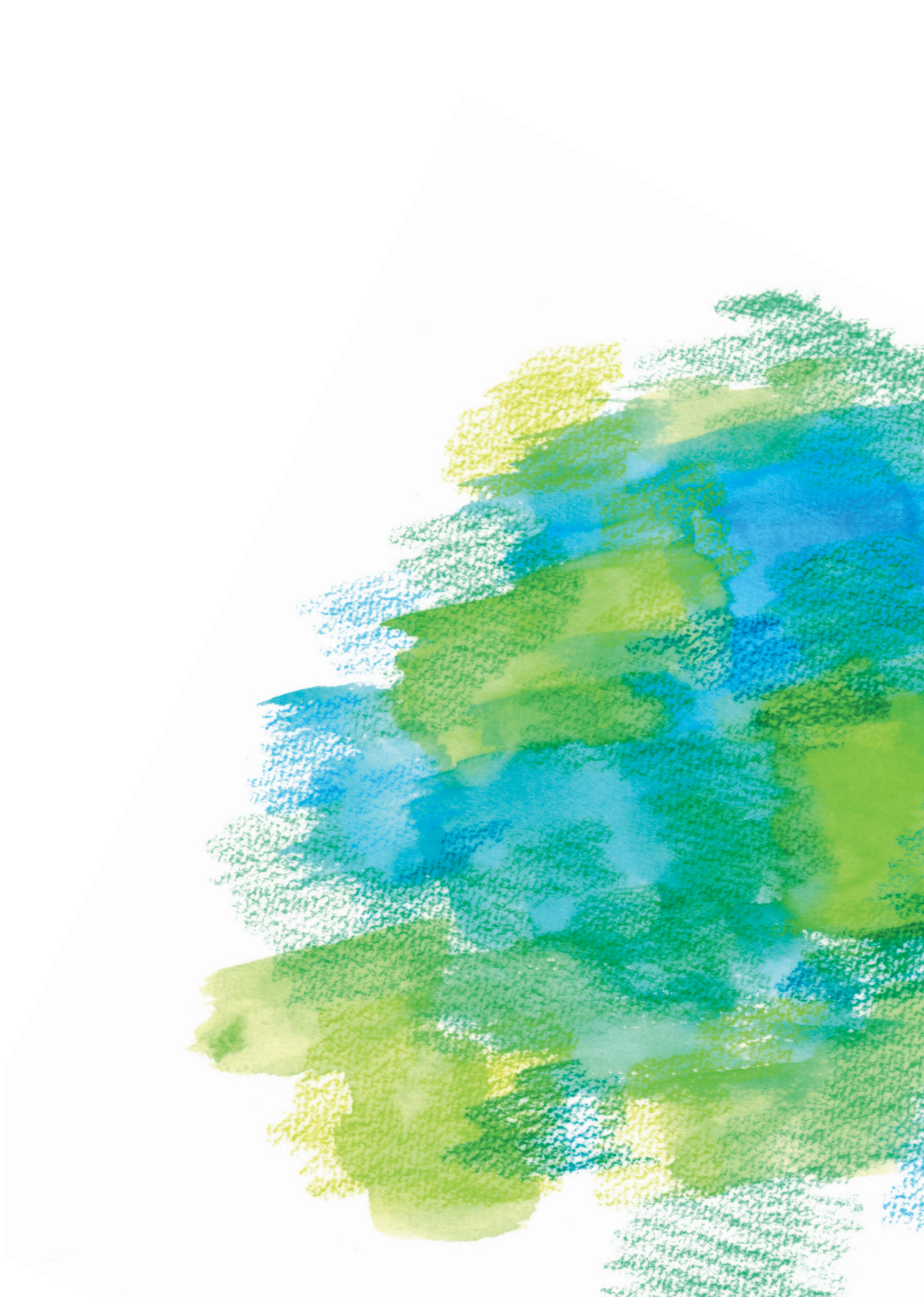
G 個々のデザイン能力向上のため、提案場所に対してデザインを深堀する。

G 発表当日
緊張のし過ぎでギャラリーをギャラクシーと言い間違う。

レポート学生編集委員

小林千鶴（編集長）・田丸真菜（副編集長）・田中和幸・五間直美・我妻祐一郎・三田恭裕・吉井信人・佐藤千香・西岡一穂

学生デザインワークショップ企画・運営委員

向山雅之（株式会社竹中工務店）・高沖哉（株式会社ヒュマス）・大木一（アプル総合計画事務所）・井野貴文（株式会社グラック）

Design：COTONA Inc.